

第V章 平安時代の遺構と遺物

平安時代の遺構は総数で246基検出された（柱穴を除く）。内訳は、建物跡41軒、掘立柱建物跡11軒、土坑86基、溝跡108条、その他の遺構7基である。

堅穴住居跡には以下に記すような共通点が伺えた。それは、①カマドが付設される壁面の外方に掘立柱建物跡が検出され、②カマドが付設されない三壁面の外側にU字形の溝跡が検出され、また、③U字形の溝跡の末端に土坑が付随し、④その堆積土中に粘土と焼土が検出されるというものである。

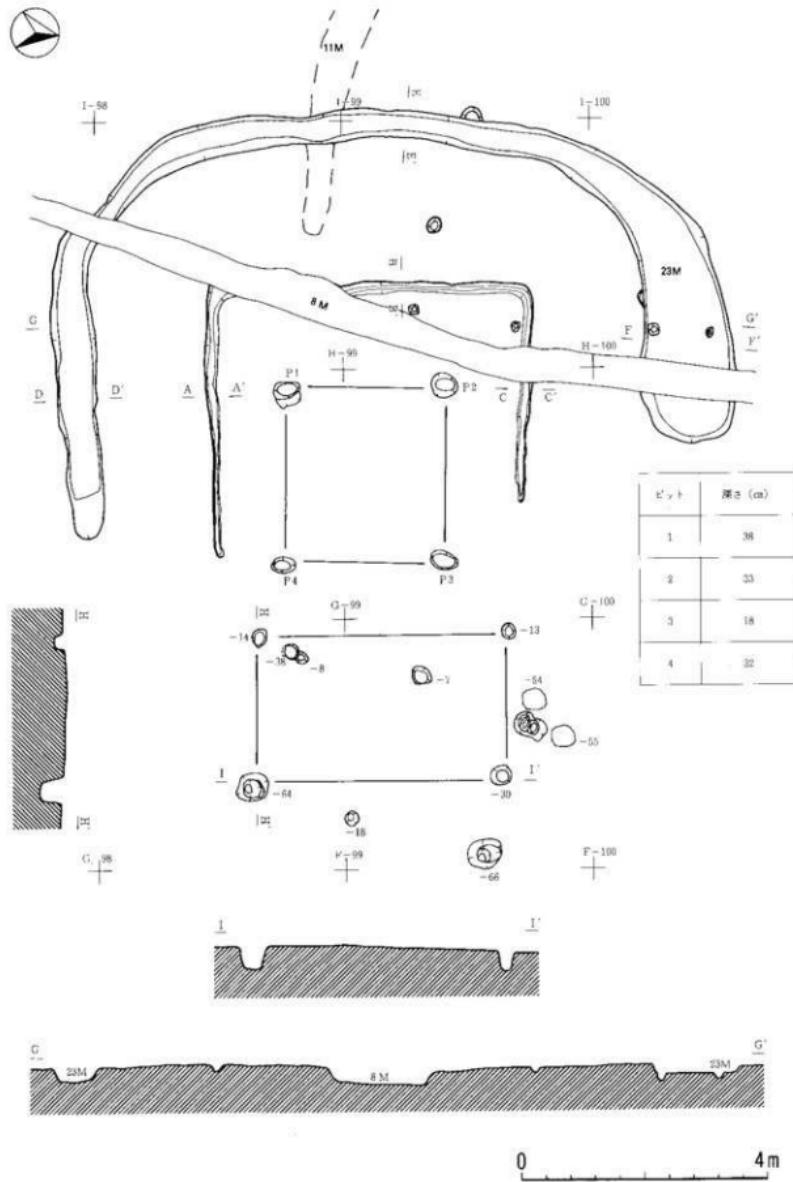
これら堅穴住居跡の周囲に検出される溝、土坑、掘立柱建物跡はあくまでも堅穴住居跡とは接しない状態で検出されたものであるため、本来的には個別に記載すべきものであるが、各々の遺構の一定した検出位置より判断して、それらを一体のものとしてとらえ、さらにそれら一体の遺構群を一括して「建物跡」と総称し、またその場合の堅穴住居跡は「堅穴部」、溝跡は「外周溝」、掘立柱建物跡は「掘立柱部」と特別に呼称した。

調査区の南域には環濠が検出され、その内側には建物跡、土坑、溝跡等の遺構が検出された。内側において検出された遺構のどれが環濠に伴うものかといった確実な根拠は得られなかったものの、環濠と建物跡とを全く切り離して記載するのは余りに消極的であると考え、あえて環濠の内側において検出された遺構は独立させ、第6節において記載することとした。

第1節 建物跡

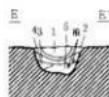
第1号建物跡 観察一覧表

位 置	G～H-98～99	図版番号	第V-1-1～2図	写真図版番号	5-1、2
重複関係	8M（現代）>1H>7H、16Hとの新旧関係は不明である。 掘立柱部分の柱穴がS B02の柱穴と共通であるが、新旧関係は不明である。				
堅	法量	東 壁	西 壁	南 壁	北 壁
	壁長（m）	(4.90)	5.24	4.34	3.42
	壁高（m）	—	—	—	—
	周溝～軸（m）	—	13	20	16
	周溝深さ（m）	—	9	13	14
穴	平面形	正方形	床面積 約21.7m ²	主軸方位 N-83°-E	
	壁	不明である。	床	ほぼ平坦である。	
	周 壁	東壁を除き一巡するものと思われる。			
	ピット	4個検出された。主柱穴は、P ₁ ～P ₄ と思われる。			
	かまど	遺存状態 検出されなかった。	位 置	東壁の南寄りであったと思われる。	
	堆積土	ごくわずかの焼土を検出した。			
部	出土遺物	内周溝の堆積土のみ検出された。2層に分層され、黒褐色土を主体とし、少量のローム粒を混入する。人為堆積と思われる。			
	附属施設	なし。			
	小 結	上部はかなり削平されていて、内周溝の下端を検出したのみである。 第7号建物跡との重複関係や、外周溝の白頭山火山灰の堆積土状況及び出土遺物から、本建物跡の時期は、世紀～世紀と思われる。			



第V-1-1図 第1号建物跡 (1)

掘立柱部	規 模	桁行 1間 (総長 4.03m - 東) × 梁行 1間 (総長 2.32m - 南)				
	平面形式	長方形を呈する南北棟建物跡である。				
	柱 穴	径 21cm～47cmの円形の掘り方である。				
	深 さ	13cm～64cmで、東側が深い。				
	柱間寸法	桁行 — 4.03m (13尺 3寸)、梁行 — 2.40m (7尺 9寸)				
	出土遺物	柱穴の堆積土 — 土師器壺 6				
外周溝・ 23 M	小 結	竪穴部の面積 (21.7m ²) + 掘立柱部の面積 (9.4m ²) = 約31.1m ² (約19畳)				
	規 模	長 さ 18.6m	幅 40～140cm	断面形	箱形	
	深 さ	10～23cm	幅 25～130cm	傾 斜	西→東	
	堆積土	6層に分層された。黒褐色土を主体とし、白頭山火山灰、ローム粒を混入する。人為堆積と思われる。				
	出土遺物	堆積土 — 土師器壺 1				
	小 結	全体的に削平されている。				
タイプ — 南側から西側にかけてはほぼ同じ幅で、北川がふくらむ。						



竪穴部 (A-A')

第1層 黒褐色土 10YR2/2 LB (少) 少量。
第2層 にふい黄褐色土 10YH5/4 ローム質、泥炭質少量。

竪穴部 (B-B')

第1層 黒褐色土 10YR3/1 LB (少) ローム粒少量。
第2層 にふい黄褐色土 10YH6/4 ローム質。

竪穴部 (C-C')

第1層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒微量。
第2層 黒褐色土 10YR2/2 LB (少) 多量。

第23号 滝跡 (E-E')

第1層 黒褐色土 10YR2/3 火山灰微量、LB (少) ローム粒少量。
第2層 黒褐色土 10YR2/2 LB (少) ローム粒微量。
第3層 黒褐色土 10YR2/3 LB (少) 少量。

第23号 滝跡 (F-F')

第1層 黒褐色土 10YR3/2 火山灰微量、LB (少) 少量。

第2層 黒褐色土 10YR3/2 火山灰、LB (少) 少量。

第3層 黒褐色土 10YR3/2 火山灰、LB (少) 少量。

第4層 にふい黄褐色土 10YR4/3 LB (少) 多量、灰微量。

第5層 にふい黄褐色土 10YH6/3 ローム質。

第6層 にふい黄色土 25YR6/3 火山灰微量。



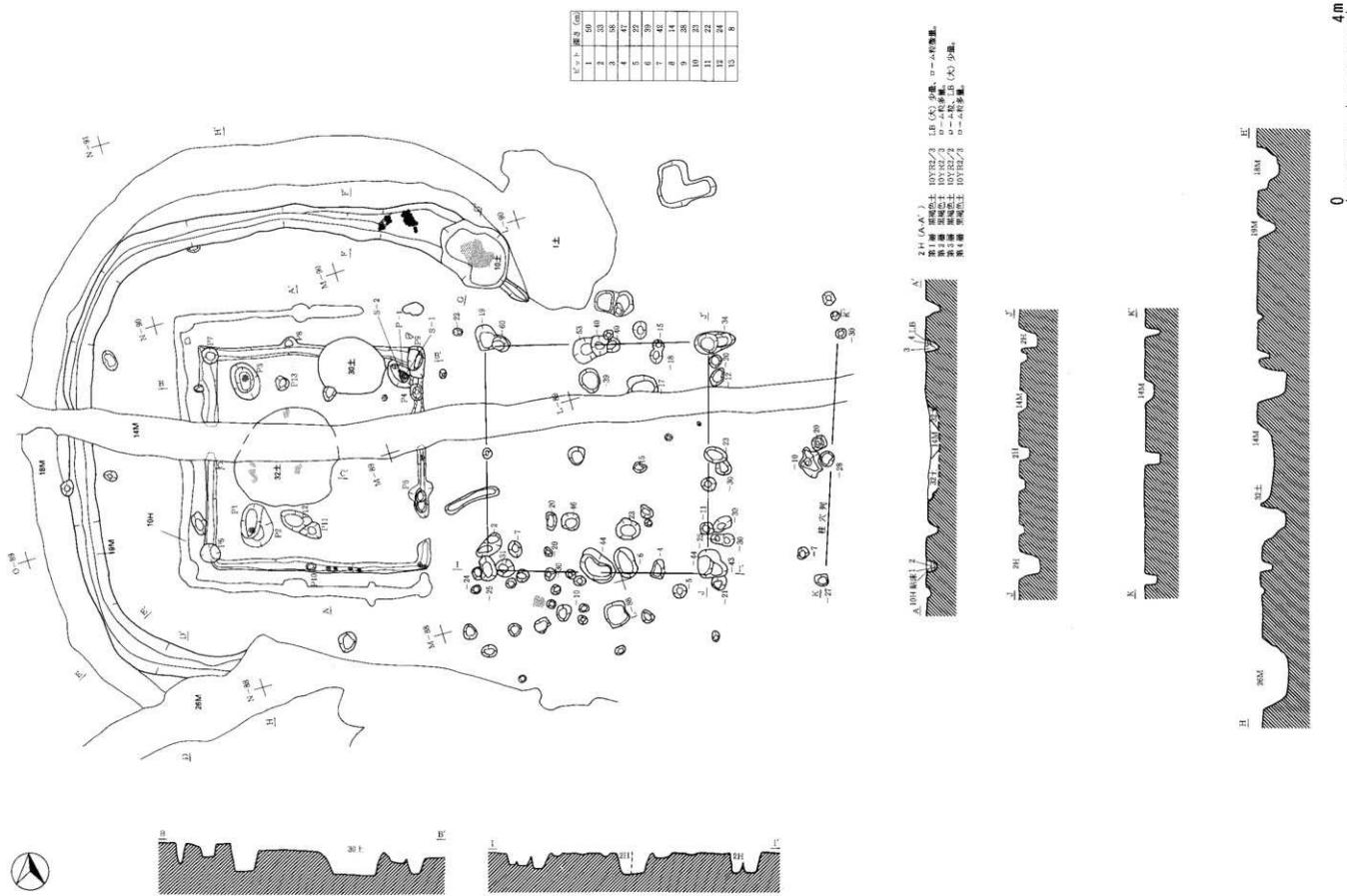
第V-1-2図 第1号建物跡 (2)

第2号建物跡 觀察一覧表

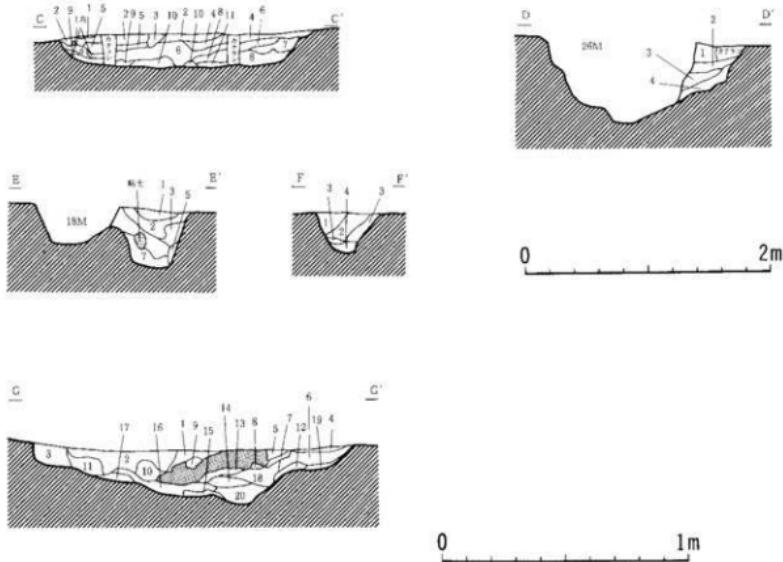
位置	L～M-88～89	図版番号	第V-1-3～5図	写真図版番号	5-3～8,6-1,3	
重複関係	3H>10H (2Hを抵振)>2H					
堅 空 部	法量	東壁	西壁	南壁	北壁	
		壁長(m)	4.80	4.70	4.80	
		壁高(m)	—	—	—	
		周溝一軸(m)	38	34	24	
	平面形	周溝深さ(m)	34	30	22	
		長方形	床面積 約17.8m ²	主軸方位	N-101°-E	
	壁	検出されなかった。			床 ほぼ平坦である。	
		かまど直下を除き一巡する。				
	ビット	11個検出された。主柱穴は、P ₁ 、P ₃ 、P ₄ 、P ₅ と思われる。				
		南東コーナー以外の3コナーに隅柱穴が見られる。				
	かまど	遺存状態	残存なし。	位 置	東壁の南寄りであったと思われる。	
		10Hの構築時に被壊されたものと思われる。				
堆積上	内周溝の堆積土のみ検出された。4層に分層され、黒褐色土を主体とし、ローム粒を混入する。人為堆積と思われる。					
	北東隅の貼床下の小土坑+土師器壺					
	鉄製品1(刀子)					
	附属施設 挖立柱建物跡1棟、外周溝-19M、上坑-10十、32土、柱穴列1基(10Hにも併載) 挖立柱建物跡は10Hと重複する。					
掘立柱部	小結 上部がかなり削平されている。(10Hの構築に起因)					
	規模 桁行2間(総長4.60m-南)×梁間2間(総長4.75m-東)					
	平面形式 ほぼ正方形を呈する東西棟建物跡である。					
	柱穴 径 45cm～70cmの円形ないし椭円形の掘り方である。					
	深さ 19cm～53cm					
	柱間寸法 桁行 2.35m(7尺8寸)、2.25m(7尺4寸) 梁間 2.40m(7尺9寸)、2.35m(7尺8寸)					
	出土遺物 なし。					
	小結 売穴部の面積(17.8m ²) + 挖立柱部の面積(22.3m ²) = 約40.1m ²					
柱穴列	規模 2間(総長5.25m)					
	平面形式 直線を呈する南北方向建物跡である。					
	柱穴 径 24cm～30cmの円形の掘り方である。					
	深さ 27cm～30cm					
	柱間寸法 2.60m(8尺5寸)、2.65m(8尺7寸)					
	出土遺物 なし。					
外周溝 19M	小結 挖立柱部1の底に相当する可能性がある。					
	規模 長さ 20.2m 深さ 34～45cm		軸 45～140cm	断面形	箱形	
	堆積土 7層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、粘土を混入する。人為堆積である。					
	出土遺物 堆積上--土師器壺47、甕61、須恵器壺4 底面--土師器壺3					
	小結 粘土・燒土の匂氣がみられる。破壊されたカマドの部材と思われる。					
	南側は3H外周溝に破壊されるため不明。北側には土坑(10十)が付隨する。					

土 坑 ・ 10 上	平面形	橢円形	壁	ゆるやかに立上がる	底面	凹凸がある。
	規 模	長 軸 170cm	短軸	127cm	深 さ	22cm
	堆 積 土	20層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、粘土、炭化材を混入する。				
	出土遺物	なし				

土 坑 ・ 32 上	平面形	不整円形	壁	ゆるやかに立上がる	底面	平坦である。
	規 模	長 軸 216cm	短軸	208cm	深 さ	56cm
	堆 積 土	11層に分層された。黒褐色土を基調とし、砂、ローム粒を混入する。				
	出土遺物	10H貼床除去後に検出されたものである。 堆積土・土師器 2				



第V-1-3図 第2号建物跡(1)



第32号 土壌 (C-C')

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 LB (大) 中量。ローム粒微量。
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 LB (小) 少量。燒土粒、炭化物。○-ム粒微量。
 第3層 黒褐色土 10YR2/2 烧土粒、炭化物。LB (小)。○-ム粒微量。
 第4層 黒褐色土 10YR2/2 LB (大)。○-ム粒多量。燒土粒微量。
 第5層 黒褐色土 10YR2/2 LB (大) 中量。○-ム粒微量。
 第6層 黒褐色土 10YR2/2 砂少量。LB (大)。○-ム粒微量。
 第7層 黒褐色土 10YR2/2 砂多量。砂B (A)。LB少量。
 第8層 黒褐色土 10YR2/2 LB (大)。○-ム粒少量。
 第9層 黒褐色土 10YR2/2 LB (中)。○-ム粒微量。
 第10層 黒褐色土 10YR2/2 LB (中) 少量。○-ム粒微量。
 第11層 黑褐色土 7.5YR3/4 砂質土、粘土B (大) 中量。

第19号 溝跡 (D-D')

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 地土、炭化物。LB (小)。○-ム粒微量。
 第2層 黑褐色土 10YR2/2 烧土粒。○-ム粒微量。
 第3層 黑褐色土 10YR2/2 ○-ム粒 (大) 少量。燒土、粘土 (小) 微量。
 第4層 黑褐色土 10YR2/2 烧土、粘土 (大)。○-ム粒微量。

第19号 溝跡 (E-E')

- 第1層 黑褐色土 10YR2/3 LB (小)。○-ム粒微量。
 第2層 黑褐色土 10YR2/3 LB (大) (小)。○-ム粒少量。
 第3層 黑褐色土 10YR2/2 烧土、粘土。○-ム粒微量。
 第4層 黑褐色土 10YR2/2 砂多量。
 第5層 黑褐色土 10YR2/2 LB (大)。○-ム粒微量。
 第6層 黑褐色土 10YR2/2 LB (A)。○-ム粒微量。
 第7層 黑褐色土 10YR1.7/1 LB (大)。○-ム粒微量。

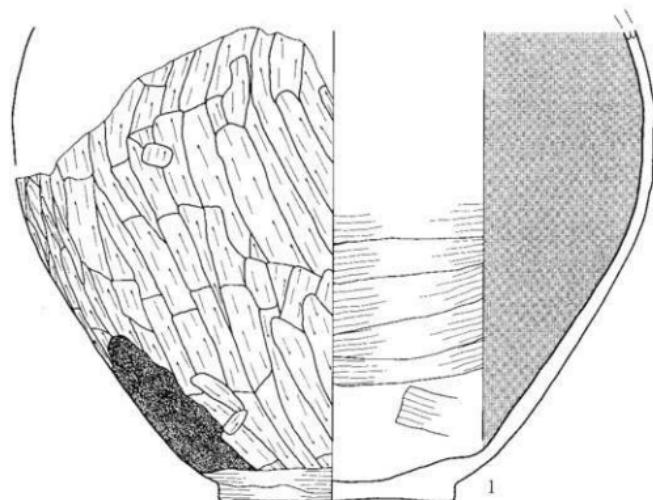
第19号 溝跡南北セク (F-F')

- 第1層 明褐色土 10YR3/3 LB (小) 中量。ローム粒微量。
 第2層 明褐色土 10YR3/2 LB (大) 中量。○-ム粒少量。
 第3層 黑褐色土 10YR2/2 粘土。○-ム粒多量、ローム粒微量。
 第4層 黑褐色土 10YR2/2 粘土。○-ム粒多量、ローム粒微量。

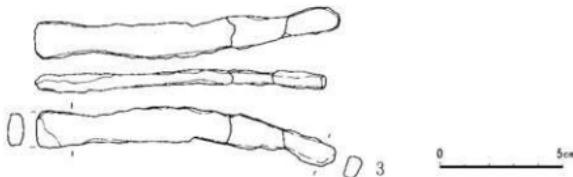
第10号 土成 (G-G')

- 第1層 明褐色土 10YR3/1 地上微量。
 第2層 黑色土 10YR2/1 ○-ム粒微量。
 第3層 黑色土 10YR4/6 ○-ム粒多量。
 第4層 黑褐色土 10YR4/1 ○-ム粒。
 第5層 明褐色土 10YR3/1 烧土少量。
 第6層 明褐色土 10YR3/2 ○-ム粒 (小) 微量。
 第7層 黑褐色土 10YR3/1 烧土、粘土、○-ム粒微量。
 第8層 明褐色土 7.5YR2/2 烧土中量。
 第9層 明褐色土 10YR2/4 烧土少量。
 第10層 明褐色土 7.5YR3/4 烧土中量。
 第11層 明褐色土 10YR2/2 ○-ム粒少量、焼土微量。
 第12層 黑褐色土 10YR4/4 粘土多量。
 第13層 黑褐色土 10YR5/4 烧土微量。
 第14層 にじい黄褐色土 10YR2/2 LB (大) 少量、燒土、炭化物微量。
 第15層 黑褐色土 10YR2/3 粘土少量、烧土、LB微量。
 第16層 明褐色土 10YR2/3 粘土中量。
 第17層 明褐色土 10YR2/2 粘土少量、炭化物。
 第18層 明褐色土 10YR5/4 ○-ム粒微量。
 第19層 黑褐色土 10YR1.7/1 烧土、粘土粒、粘土 (A)、○-ム粒微量。

第V-1-4図 第2号建物跡 (2)



遺物 番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm)	外面調査		内面調査		形状	分類	備考	写真 番号	
					口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土器	短縦帯	床下	(19.0)	9.5			ハラケズリ	ハラケズリ		ハラナデ	ハラケズリ	内曲葉包形 浅腹、化粧粘土
2	=	縦	ISM式座	(5.1)	8.4			*			*	砂流	



遺物 番号	種類	種類	出土位置	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	特		形 考	「礫石」 付力 %	写真 番号
								先端	背面			
3	鉄製品	刀子	ZH	129.0	16.0	8.0	16.1	方先欠頭	背面に間が見られる刃部には口 られない	P-2	X 01	

第V-1-5図 第2号建物跡 (3)

第3号建物跡 観察一覧表

位 置	M~O-85~87	図版番号	第V-1-6~12図	写真図版番号	5-3,6-2~8,7-1,2
-----	-----------	------	------------	--------	-----------------

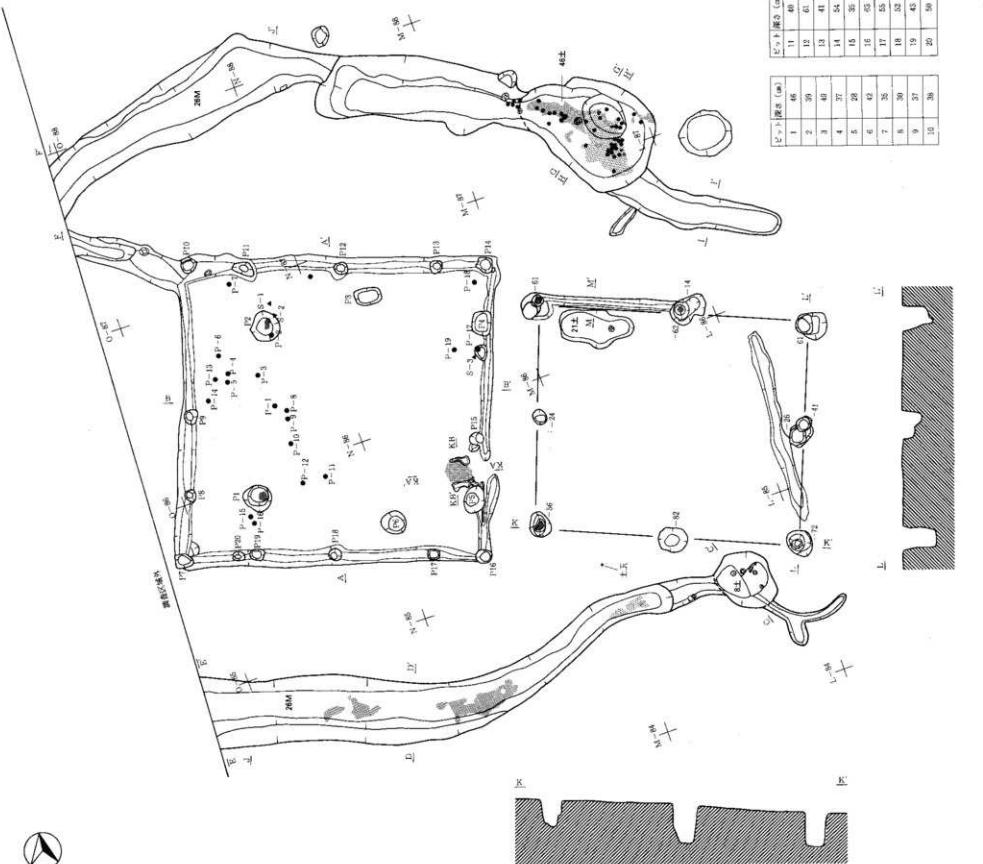
重複関係	3H>10H(2Hを抜去)>2H
------	------------------

壁 部	法 量	東 壁	西 壁	南 壁	北 壁
		壁 長 (m)	6.47	6.60	6.68
		壁 高 (m)		27	7
		周溝 (m)	18	23	35
		周溝深さ (m)	20	20	25
	平 面 形	正方形	床面積 約35.1m ²	主軸方位 N-97°-E	
		壁	直線的に外反する。	床	平坦である。
	周 壁	カマド直下を除き一巡する。カマド煙道部方向には内周溝が2条みられる。			
	ビ ッ ト	20個検出された。壁柱穴は15基みられる。			
		主柱穴は、P ₁ 、P ₂ 、P ₄ 、P ₅ と思われる。P ₁ 、P ₂ には柱痕がある。			
		遺存状態 やや良好	位 置 束壁の南寄り		
	か ま ど	ノゾムの人半は削平のため残存していないが、火床面及びその周辺の土器は良好に検出された。煙道部は検出されなかったが、周溝が途切れている点よりみて、浅い煙道部は存在したものと思われる。			
	堆 積 土	9層に分層された。黒褐色土を主体とし、焼土、粘土、ローム粒を混入する。 人為・自然堆積かは不明である。			
	出土遺物	堆積土上-土師器窯3、甕38、須恵器窯4、壺1、大甕1 床面-土師器窯6、甕35、須恵器窯2、人甕3、鉄製品1（刀子） 内周溝確認一鉄製品1（？）、内周溝堆積土-須恵器窯1 貼床中-土師器窯1、須恵器窯1 カマド確認面一鉄製品1（刀子） カマド堆積土上-土師器窯2、カマド床面-鉄製品1（刀子）			
	附属施設	獨立性建物跡1、外周溝-26M、土坑-8土、46土			
	小 結	北西隅には溝跡が1条付随する（重複関係ではなく一体のものと考えられる）。			

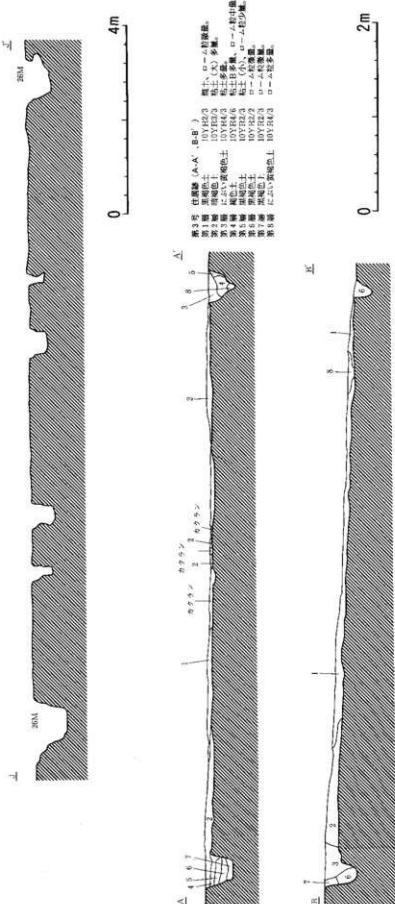
掘 立 柱 部	規 模	析行2間（総長5.46m-南）×梁間2間（総長4.82m-西）			
		長方形を呈する東西棟建物跡である。周溝状の溝跡が2条付随し、うち1条は2個の柱穴を連結する。			
	平 面 形	径	24cm~69cmの楕円形の掘り方である。		
	柱 穴	深 さ	24cm~82cmで、本遺跡の中で最も深い。		
	柱間寸法	析行	2.84m（9尺3寸）、2.62m（8尺6寸）		
		梁間	2.32m（7尺6寸）、2.50m（8尺2寸）		
	出土遺物	柱穴堆積土上-土師器窯3、須恵器窯1、人甕2			
	小 結	柱穴部の面積（35.1m ² ）+掘立柱部の面積（26.3m ² ）=約61.4m ²			

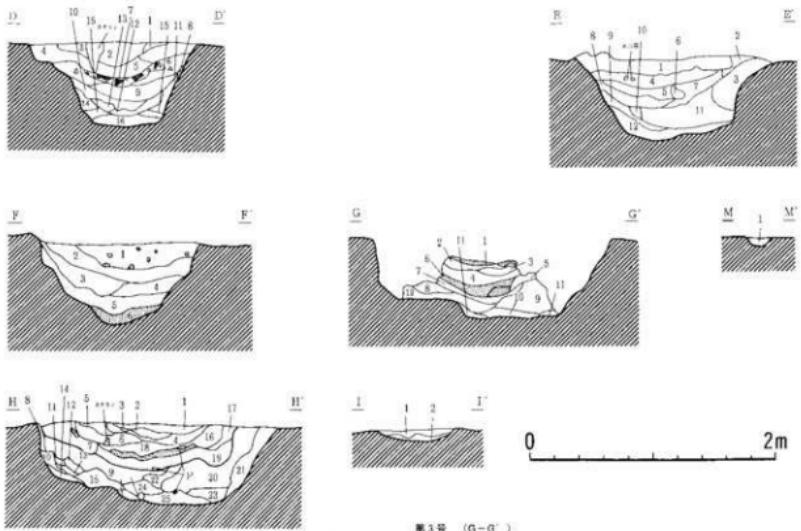
外 周 溝 26 M	規 模	長 さ	31.5m	幅	18~160cm	断面形	箱形
		深 さ	64~69cm	幅	13~64cm	傾 斜	西→東
	堆 積 土	12層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、粘土、焼土を混入する。上位で白頭山火山灰を検出した。自然堆積と思われる。					
	出土遺物	堆積土	-土師器窯2、甕98、須恵器窯2、壺2、人甕1、鉄製品1				
	小 結	粘土、焼土の発見がみられる。破壊したカマドの部材と考えられる。					
	再末端に土坑が付随し、外周溝がさらに細長く延びる。						

土 坑 8 土	平 面 形	楕円形	堂	直線的に外反する。	底 面	平坦である。
	規 模	長 軸 138cm	短 軸 114cm		深 さ	67cm
	堆 積 土	セクション図は作成しなかった。				
	出土遺物	堆積土上-土師器窯35				



第V-1-6図 第3号建物跡(1)





第3号 (G-G')

第26号 滑動 (D-D')	
第1層	黒褐色土 10YR2/2
第2層	黒褐色土 10YR3/1
第3層	黒色土 10YR2/1
第4層	東褐色土 10YH2/3
第5層	東褐色土 10YH2/3
第6層	黒褐色土 10YH2/3
第7層	黒褐色土 10YH2/3
第8層	東褐色土 10YH2/3
第9層	東褐色土 10YR2/3
第10層	黒褐色土 10YH2/2
第11層	黒褐色土 10YR2/2
第12層	黒褐色土 10YR3/3
第13層	東褐色土 10YH2/3
第14層	黒褐色土 10YH2/3
第15層	黒褐色土 10YR2/4
第16層	緑色土 10YR4/4
第26号 滑動 (E-E')	
第1層	黒色土 10YR2/1
第2層	黒褐色土 10YR2/2
第3層	黒色土 10YR2/1
第4層	東褐色土 10YH2/3
第5層	東褐色土 10YH2/3
第6層	黒褐色土 10YH2/3
第7層	黒褐色土 10YH2/3
第8層	東褐色土 10YH2/2
第9層	東褐色土 10YH2/2
第10層	東褐色土 10YH2/2
第11層	東褐色土 10YH2/2
第12層	黒色土 10YR1/1
第26号 滑動 (F-F')	
第1層	黒褐色土 10YR2/3
第2層	東褐色土 10YH2/3
第3層	東褐色土 10YH2/2
第4層	東褐色土 7.5YR2/2
第5層	黒色土 10YH2/1
第6層	明黄褐色土 10YH6/6

第4号 土壌 (H-H')

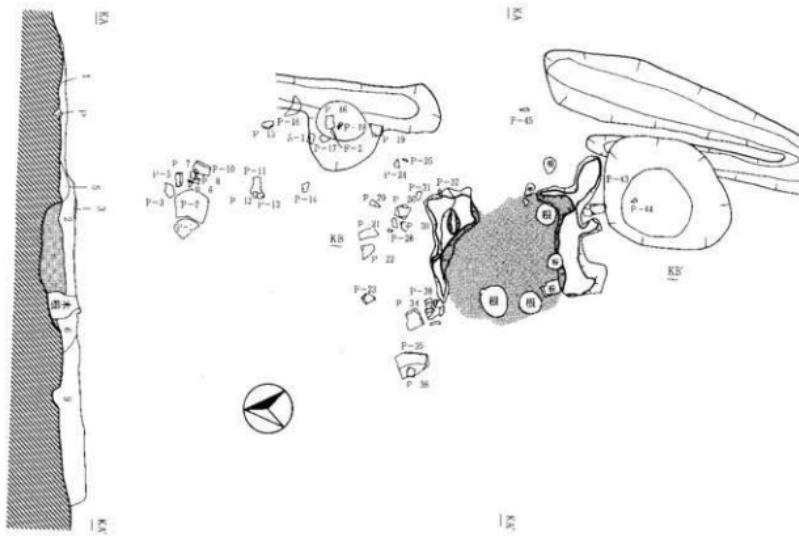
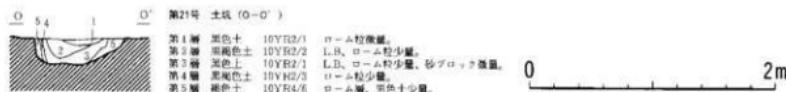
第1層	褐褐色土 10YTG4/2	火山灰, ○-△-△少量, 灰土, 次化物微量。
第2層	褐褐色土 10YTG2/2	火山灰, ○-△-△少量, 灰土, 次化物微量。
第3層	褐褐色土 10YTG2/2	火山灰, ○-△-△少量, 灰土, 次化物微量。
第4層	褐褐色土 10YR3/2	火山灰, ○-△-△少量, 次化物微量。
第5層	褐褐色土 10YH3/3	○-△-△少量, 灰土, ○-△-△微量。
第6層	褐褐色土 10YR2/3	○-△-△中量, 灰土, 次化物微量。
第7層	褐褐色土 10YH2/2	次化物中量, 灰土, ○-△-△微量。
第8層	褐褐色土 10YH2/2	○-△-△中量, 次化物微量。
第9層	褐褐色土 10YH2/2	○-△-△中量, 次化物微量。
第10層	褐褐色土 10YH2/2	○-△-△中量, 次化物微量。
第11層	褐褐色土 10YH2/2	○-△-△中量, 次化物微量。
第12層	褐褐色土 10YH2/2	○-△-△少量, 黄褐色粘土微量。
第13層	褐褐色土 10YH2/2	○-△-△少量。
第14層	褐褐色土 10YR2/3	○-△-△中量, L.B., 灰褐色粘土微量。
第15層	褐褐色土 10YR2/2	L.B. (人) 少量, 灰土, 次化物, 灰褐色粘土微量。
第16層	褐褐色土 10YH2/2	○-△-△中量, 次化物, ○-△-△微量。
第17層	褐褐色土 10YH2/2	○-△-△中量, 灰土, 次化物少量。
第18層	褐褐色土 10H4/4	粘土, 灰土多量, ○-△-△中量, 次化物微量。
第19層	褐褐色土 10YH2/2	次化物, 灰土, ○-△-△微量。
第20層	褐褐色土 10YH2/2	○-△-△中量, 灰土, 次化物, ○-△-△微量。
第21層	褐褐色土 10YH2/2	○-△-△中量, 灰土, 次化物, ○-△-△微量。
第22層	褐褐色土 10YH2/2	粘土, ○-△-△少量, 次化物微量。
第23層	褐褐色土 10YR3/1	○-△-△中量, 次化物微量。
第24層	褐褐色土 10YR3/1	○-△-△少量, 灰土, 次化物微量。
第25層	褐褐色土 10YR3/1	L.B. (人), ○-△-△中量, 灰土, ○-△-△少量, 灰土。

第26号 滑動 (I-I')

第1層	黒褐色土 10YR2/2	○-△-△微量。
第2層	黒褐色土 10YR3/2	○-△-△少量, 灰土, 次化物, L.B.微量。
窓穴部 (M-M')		
第1層	褐褐色土 10YH3/2	○-△-△中量。

第V-1-7図 第3号建物跡 (2)

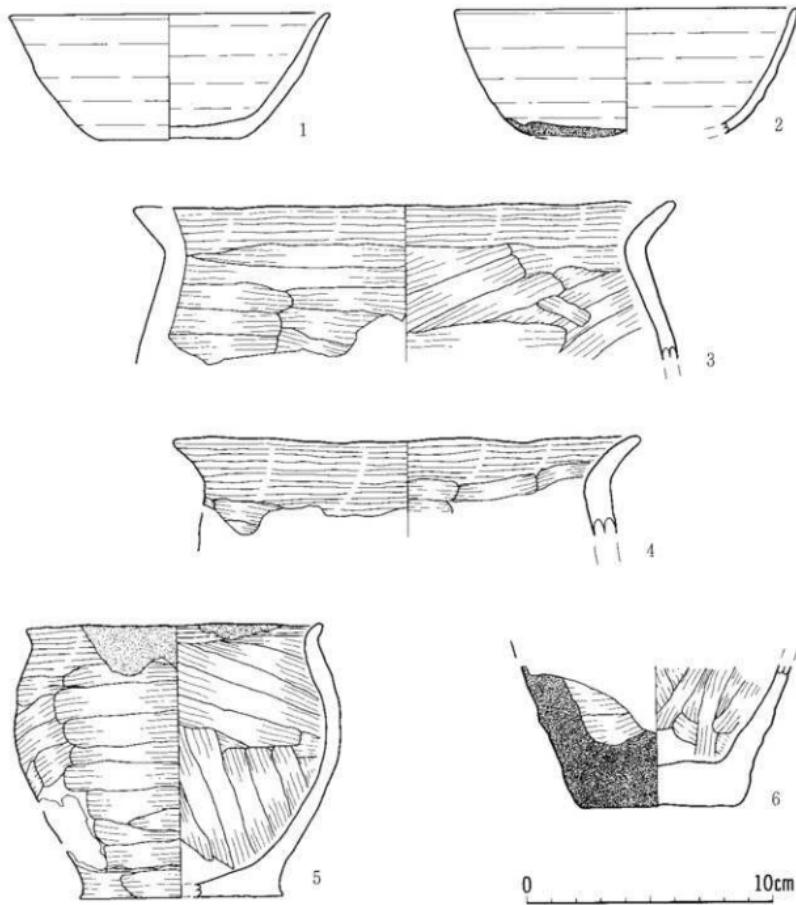
土 坑 ・ 46 土	平面形	楕円形	壁	直線的に外反する。	底	凸凹がある。
	規 模	長 軸 300cm	短 軸 198cm		深 さ	64cm
		25層に分層された。黒褐色土を主体とし、焼土、粘土、ローム粒、炭化物を混入する。上位に白頭山火山灰が検出された。H-H'セクションの太線以下層は人為、それより上層は自然堆積と思われる。				
	出土遺物	堆積土—土器器 111、須恵器 8、鉄滓 1				
	小 結	粘土、焼土の廃棄がみられる。破壊されたカマドの渦材であると思われる。				



竪穴部(カマド跡)

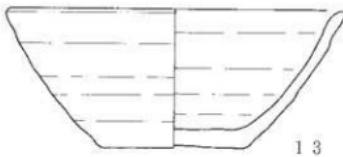
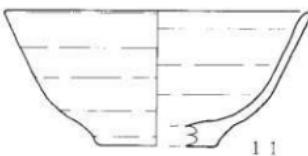
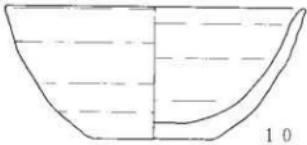
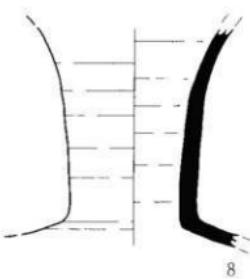
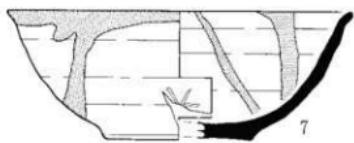
- 第1層 10YR2/3 黒褐色土 粘土、ローム粒、にふい黄褐色土微量。
- 第2層 10YR3/3 黑褐色土 粘土粒微量。
- 第3層 7.5YR3/4 黑褐色土 粘土層。炭化物土中量。
- 第4層 7.5YR4/4 黑褐色土。
- 第5層 7.5YR4/4 黑褐色土。
- 第6層 7.5YR4/2 黑褐色土。ローム粒微量。
- 第7層 10YR2/3 黑褐色土。ソテ。墨色土を既知する。
- 第8層 7.5YR2/2 黑褐色土。
- 第9層 10YR3/4 黑褐色土。燒上少量、炭化物粒、ローム粒微量。
- 第10層 10YR2/2 黑褐色土 炭化物微量、ローム粒微量。

V-1-8図 第3号建物跡 (3)



遺物 番号	種類	器種	出土位置	計測値 (cm)			外面調査		内面調査		底面調査	分類	備考	寸貫 番号
				口径	底面 直径	底面 周長	口縁 形状	体部上半	体部下半	口縁 形状	体部上半	体部下半		
1	土器	壺	床面	13.0	5.0	5.4	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	近軸赤切	
2	"	"	壁穴部 フク土	(14.0)	5.1		×	—	—	—	—	—		
3	"	甕	—	(21.9)	6.3		ヨコナタヘラナタ	—	ヨコナタヘラナタ	—	—	—	試辺部・底部ハクリ	
4	"	—"カマド	床面	(18.9)	4.0		—	—	—	—	—	—		
5	"	小甕	壁穴部 フク土	12.0	11.0	(8.2)	—	—	ヘラナタ	—	—	ヘラナタ	スヌ 形	
6	"	甕	—"カマド 床面	5.6	6.3		—	—	—	—	—	ヘラナタ	二次焼成 ハクリ	

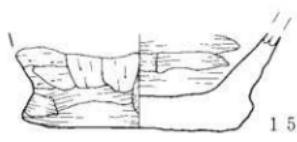
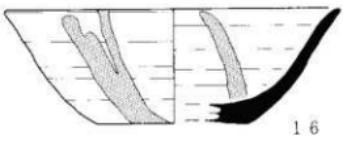
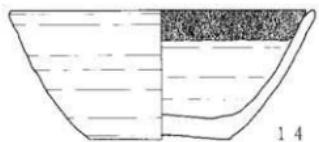
第V-1-9図 第3号建物跡 (4)



0 10cm

遺物 番号	器種	出土位置	計測値 (cm)		外面 製 磁		内面 製 磁		底面 形	分類 概 考	写真 番号
			口径	底周	口 縁 部	底部上半	底部下半	底部上半	底部下半		
7 漏斗器	环	土面直上 (14.0)	5.2	6.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	大ダメキ×ヘラ書き 断土分析-1(織入)	
8	=" 長縦型 フタ付	(8.8)	"	"	"	"	"	"	"	粘土分析-2(織入)	
9	=" 短縦型 フタ付	(20.2)	2.0	"	"	"	"	"	"		
10 土師器	环	26 M フタ付	(12.1)	5.3	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪系切	織入
11	"	"	(12.4)	3.4	(4.8)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪系切	織入
12 漏斗器 大 縱	"	"	(9.4)	"	轆子紋 四角目	"	"	"	"	円筒模様 (平行)	粘土分析-58 (日本海側)
13 十角器	环	46 土 フタ付	(13.8)	5.6	5.9	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	圓輪系切	二次焼成

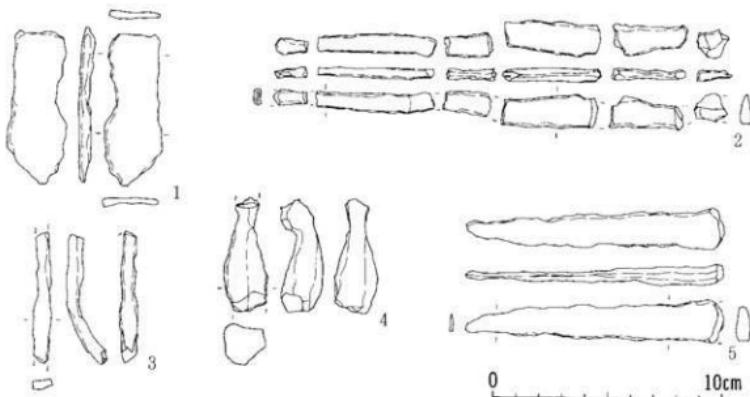
第V-1-10図 第3号建物跡 (5)



0 10cm

遺物 番号	種類	岩種	出土位置	計測値 (cm)	外面 調 査		内面 調 査		底面調整	分類	備 考	写真 番号
					口洋 高さ	底幅	口部 底部トド	体部下半				
14	土師器	环	46 上 フラン	(12.4) 2.2 5.6	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転系切	次焼成 黒釉。ハカリ	
15	"	甕	"	3.3 8.5			ハラナギ ハラナギリ		ハラナギ	砂質		
16	陶器	环	"	(13.7) 4.7 (6.1)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転系切	火口スカラ・裏裡色 約十分析 - 29 (施入) 粘土分析 - 44 (日本海側)	
17	"	大甕	"	(11.4)			平 ヨコナリ		当て良段 (アラシ)			

第V-1-11図 第3号建物跡 (6)



第V-1-12図 第3号建物跡（7）

第4号建物跡 観察一覧表

位置	I~J-83~84	図版番号	第V-1-13~14図	写真図版番号	7-3
重複関係	30M、31M > 4H 18Hとの新旧関係は不明である。				
壁					
法量	壁長 (m)	4.60	西壁	3.72	北壁
	壁高 (m)	—	—	—	—
	周溝幅 (m)	23	20	18	23
	周溝深さ (m)	16	8	3	9
平面形	長方形	床面積 約14.4m ²		主軸方位 N-100°-E	
壁	検出されなかった。		床	南・東側に傾斜している。	
周壁	かまど直下を除き一巡する。				
ビット	7個検出された。 主柱穴は、P ₁ ~P ₄ ・P ₆ で、P ₁ ・P ₆ は掘立柱部3に延びると思われる。				
かまど	遺存状態 検出されなかった。	位 置 東壁の南寄りと思われる。			
堆積土	内周溝の堆積土のみ検出された。4層に分層され、黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、粘土を混入する。人為堆積と思われる。				
出土遺物	床面-七師器壺1				
附属施設	掘立柱建物跡3、外周溝(27M)、上坑(18+)、東側に埠状の施設1				
小結	上部はかなり削平されていて、かろうじて内周溝を検出したのみである。 掘立柱部分は3度の建替えがなされたものと思われる。				
	出土遺物から、本建物跡の時期は9世紀末葉~10世紀初頭と思われる。				

掘立柱部 1	規 模	桁行1間(総長4.85m-東)×梁行2間(総長3.34m-南)				
	平面形式	長方形を呈する東西棟建物跡である。				
	柱 穴	径	24cm~49cmの楕円形の掘り方である。			
		深 さ	24cm~41cmである。			
	柱間寸法	桁行	4.85m(16尺0寸)			
		梁行	1.66m(5尺5寸)、1.68m(5尺5寸)			
出土遺物		なし。				
小 結		竪穴部の面積(14.4m ²) + 掘立柱部の面積(16.1m ²) = 約30.5m ² (約19畳)				

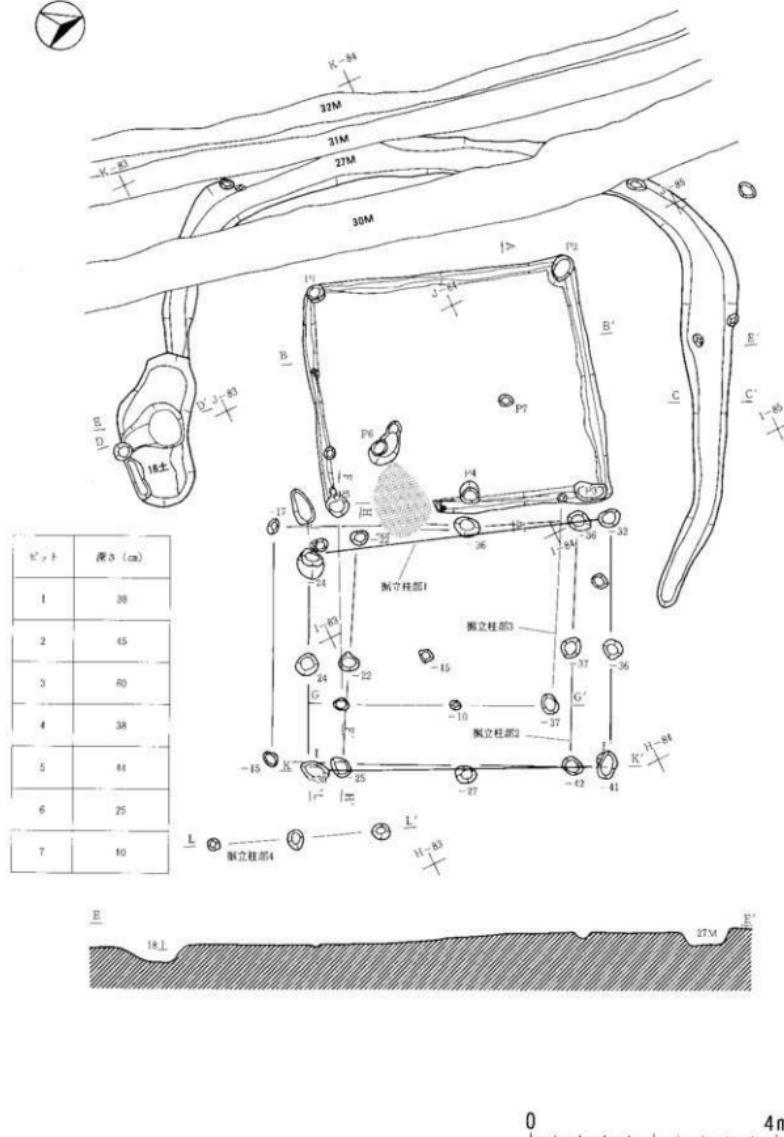
掘立柱部 2	規 模	桁行3間(総長4.84m-東)×梁行2間(総長3.91m-北)				
	平面形式	長方形を呈する東西棟建物跡である。				
	柱 穴	径	24cm~40cmの楕円形の掘り方である。			
		深 さ	15cm~37cmである。			
	柱間寸法	桁行	1.12m(3尺7寸)、2.00m(6尺6寸)、1.72m(5尺6寸)			
		梁行	2.01m(6尺6寸)、1.90m(6尺2寸)			
出土遺物		なし。				
小 結		竪穴部の面積(14.4m ²) + 掘立柱部の面積(18.9m ²) = 約33.3m ² (約20畳)				

掘立柱部 3	規 模	桁行1間(総長3.23m-南)×梁行2間(総長3.36m-東)				
	平面形式	長方形を呈する東西棟建物跡である。				
	柱 穴	径	14cm~34cmの楕円形の掘り方である。			
		深 さ	10cm~37cmである。			
	柱間寸法	桁行	3.23m(10尺7寸)			
		梁行	1.84m(6尺1寸)、1.52m(5尺0寸)			
出土遺物		なし。				
小 結		竪穴部の面積(14.4m ²) + 掘立柱部の面積(10.9m ²) = 約25.3m ² (約15畳)				

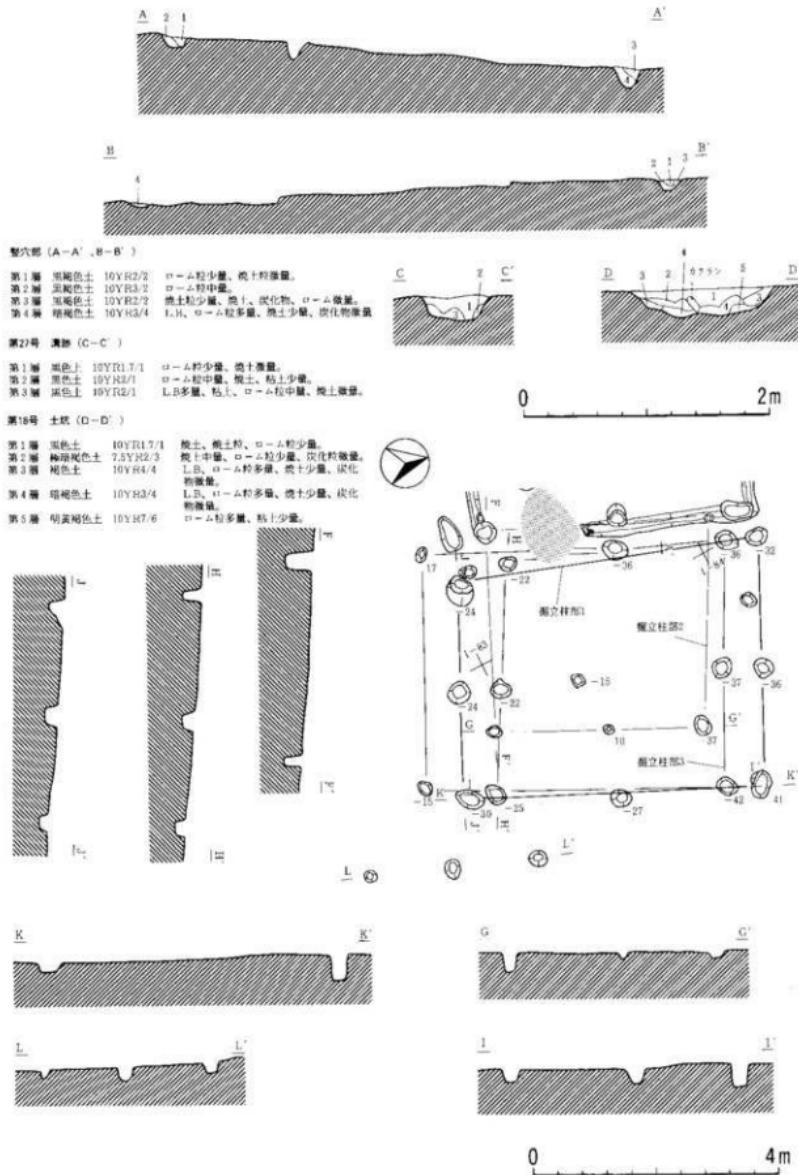
外周溝 ・ 27 M	規 模	長 さ	19.2m	幅	47cm	断面形	箱形
		深 さ	18cm	幅	37cm	傾 斜	西→東
	堆 積 土	3層に分層された。黒褐色土を主体とし、焼土、粘土、ローム粒、炭化物を混入する。 人為堆積と思われる。					
	出土遺物	堆積土——土師器甕6、須恵器壺1(五所川原產と思われる)					
	小 結	タイプ一南側に土坑が付随し、北側は末端がしつぼ状に狹まる。削平されている。					

上 坑 ・ 18 土	平 面 形	楕円形	壁	ゆるやかに立上がる。	底 面	凹凸がある。	
	規 模	長 軸	247cm	短 軸	115cm	深 さ	21cm
	堆 積 土	5層に分層された。暗褐色土を主体とし、焼土、粘土、ローム粒、炭化物を混入する。 自然堆積と思われる。					
	出土遺物	なし。					
	小 結	中央が一段くぼんでいる。					

掘立柱部 ・ 櫛 状	規 模	桁行2間(総長2.68m)				
	平面形式	直線を呈する南北棟建物跡である。				
	柱 穴	径	20cm~30cmの楕円形の掘り方である。			
		深 さ	12cm~20cm			
	柱間寸法	1.34m(4尺4寸)、1.34m(4尺4寸)				
	出土遺物	なし。				
小 結						



第V-1-13図 第4号建物跡（1）



第5号建物跡 觀察一覧表

位 置 L～M-78～81	図版番号 第V-1-15～16図	写真図版番号 7-4、5
-----------------	--------------------	----------------

重複関係：32M、37M>5H

壁 法 量	東 壁	西 壁	南 壁	北 壁
	壁 長 (m) 5.92	5.88	6.18	5.94
	壁 高 (m)	—	—	—
	周溝一帯 (m) 25	33	34	—
周溝深さ (m)	3	12	8	—
平面形	正方形	床面積 約29.1m ²	主軸方位 N-123-E	
壁	検出されなかった。		床	平坦である。
周 壁	一巡していたものと思われる。南壁の中央は途切れている。			
穴	17個検出された。 主柱穴は、P ₁ ～P ₄ 、P ₁₅ 、P ₁₆ で、壁柱穴は、P ₅ ～P ₈ 、P ₁₀ と思われる。			
部	か ま ど	遺存状態 不良	位 置 東壁の南寄りと思われる。 焼上 (40×30cm) を検出したのみである。	
附屬施設	堆 積 土	検出できなかった。		
出土遺物	なし。			
1	規 模	桁行1間 (総長4.56m-南) ×梁行1間 (総長3.28m-東) 長方形を呈する東西棟建物跡である。		
掘 立 柱 部	平面形式	柱 穴	径 32cm～52cmの橢円形の掘り方である。	
		深 さ	33cm～86cmである。	
		柱間寸法	桁行 4.56m (15尺0寸) 梁行 3.28m (10尺8寸)	
	出土遺物	なし。		
	小 結	かなり削平されていて、からうじて内周溝を検出したのみである。 豎穴部分、掘立柱部分とともに2度の建替えがなされたものと思われる。 外周溝の出土遺物から、本建物跡の時期は、9世紀中葉～後葉と思われる。		

掘 立 柱 部	規 模	桁行1間 (総長4.56m-南) ×梁行1間 (総長3.28m-東) 長方形を呈する東西棟建物跡である。
	柱 穴	径 32cm～52cmの橢円形の掘り方である。
	深 さ	33cm～86cmである。
	柱間寸法	桁行 4.56m (15尺0寸) 梁行 3.28m (10尺8寸)
1	出土遺物	なし。
	小 結	豎穴部の面積 (29.1m ²) + 掘立柱部の面積 (12.3m ²) = 約41.4m ² (約26畝) 豎穴部の土柱穴P ₁ 、P ₄ と連結する。

掘 立 柱 部	規 模	桁行2間 (総長3.74m-南) ×梁行1間 (総長4.03m-東)
	平面形式	台形を呈する東西棟建物跡である。
	柱 穴	径 28cm～48cmの橢円形の掘り方である。
	深 さ	27cm～55cmである。
	柱間寸法	桁行 1.78m (5尺8寸)、1.96m (6尺4寸) 梁行 3.28m (10尺8寸)
2	出土遺物	なし。
	小 結	豎穴部の面積 (29.1m ²) + 掘立柱部の面積 (12.9m ²) = 約42.0m ² (約26畝)

掘 立 柱 部	規 模	桁行2間 (総長9.90m)
	平面形式	直線状。
	柱 穴	径 20cm～26cmの円形の掘り方である。
	深 さ	17cm、47cm、59cmである。
	柱間寸法	桁行 5.50m (18尺2寸)、4.40m (14尺5寸)
3	小 結	防風雪の施設とも考えられる。

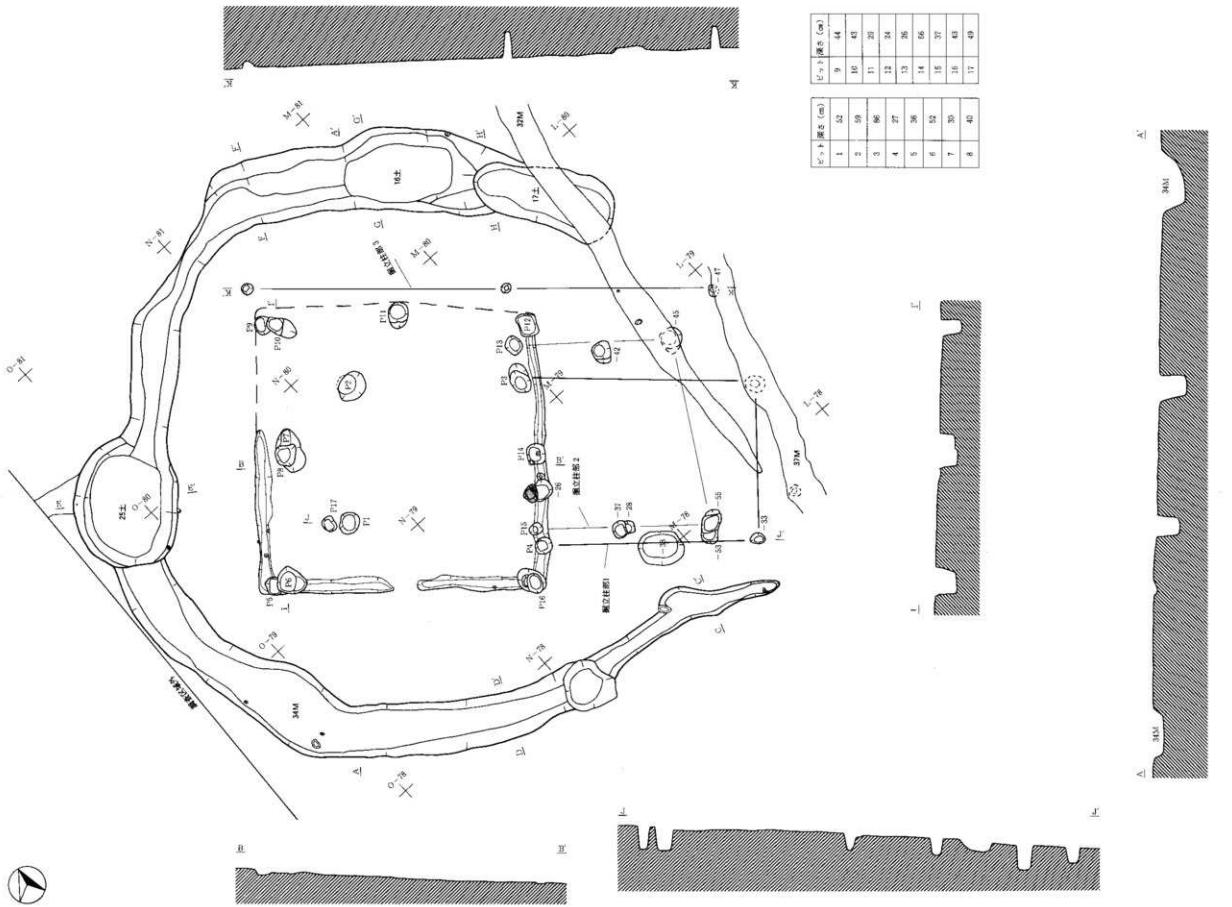
外 周 溝 34	規 模	長 さ 32.5m	幅 34~150cm	断面形 箱形			
	深 さ	22~50cm	幅 20~124cm	傾 斜 西→東			
	堆 積 土	6層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土を混入する。人為堆積と思われる。					
	出土遺物	堆積上—土師器甕 8、須恵器壺 1、石器、石製品					
M 小 結							
タイプ—南側の末端がしつぼ状に狭まり、北側に土坑が2基付随する。 なお、中央（西側）にも土坑付隨し、北西側の一部が狭まる。							

土 坑 ・ 堆 積 土 16	平 面 形	箱円形	壁 ゆるやかに立上がる。	底 面 丸底状
	規 模	長 軸 (272) cm	短軸 117cm	深 さ 57cm
	堆 積 土	22層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、粘土を混入する。人為堆積と思われる。		
	出土遺物	堆積上—土師器 4		
M 小 結				

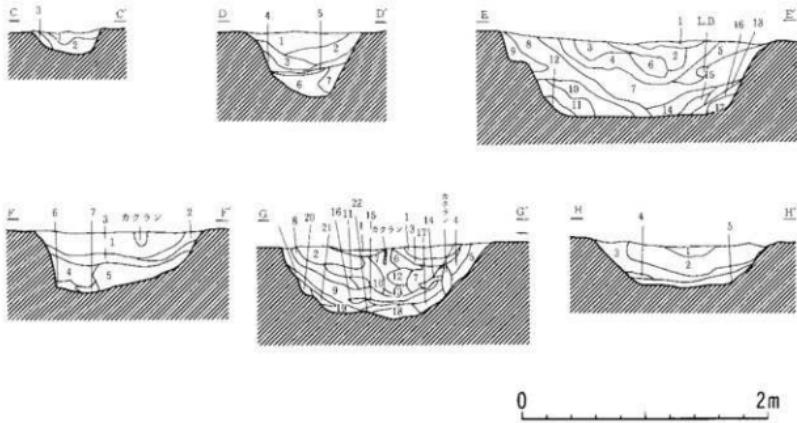
土 坑 ・ 堆 積 土 17	平 面 形	箱円形	壁 直線的に外反する。	底 面 やや凹凸がある。
	規 模	長 軸 306cm	短軸 124cm	深 さ 34cm
	堆 積 土	5層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、炭化物を混入する。人為堆積と思われる。		
	出土遺物	堆積上—土師器 2		
M 小 結				

上 坑 ・ 堆 積 土 25	平 面 形	箱円形	壁 直線的に外反する。	底 面 平坦である。
	規 模	長 軸 (260) cm	短軸 218cm	深 さ 60cm
	堆 積 土	17層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、炭化物を混入する。自然堆積と思われる。		
	出土遺物	なし。		
M 小 結				

北



第V-1-15図 第5号建物跡(1)



第34号 地盤 (C-C')

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 植土、ローム粒少量。
第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量、粘土微量。
第3層 黒色土 10YR2/2 ローム粒少量、粘土微量。

第34号 地盤 (D-D')

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 沖土、ローム粒少量。
第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量、粘土微量。
第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量、粘土微量。
第4層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量、粘土微量。
第5層 黒色土 10YR1/1 粘土、L.B.、ローム粒中量、粘土少量。
第6層 黒色土 10YR2/1 粘土、L.B.、ローム粒多量。
第7層 黒色土 10YR1/1 粘土、L.B.、ローム粒少量。

第25号 土坑 (E-E')

- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量。
第2層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒中量。
第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒多量。
第4層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒多量。
第5層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量。
第6層 黑色土 10YR1/1 粘土、L.B.、ローム粒多量。
第7層 黑褐色土 10YR2/2 粘土、L.B.、ローム粒少量、植土、炭化物微量。
第8層 黑色土 10YR1/1 粘土、L.B.、ローム粒中量、炭化物微量。
第9層 黑色土 10YR2/1 ローム粒中量、L.B.少量、炭化物微量。
第10層 黑色土 10YR2/1 ローム粒多量、L.B.少量。
第11層 黑色土 10YR2/1 L.B.多量、ローム粒微量。
第12層 利更褐色土 10YR6/6 炭化物微量。
第13層 黑色土 10YR2/1 ローム粒少量。
第14層 白い黒褐色土 10YR4/3 ローム粒少量、砂の量。
第15層 黑褐色土 10YR2/1 ローム粒少量、砂少量。
第16層 黑褐色土 10YR2/2 L.B.、O-ム粒多量。

第34号 地盤 (F-F')

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒中量、植土、炭化物。
第2層 黒褐色土 10YR2/2 粘土少量、ローム粒微量。
第3層 黒褐色土 10YR2/3 植土、O-ム粒少量。
第4層 黒褐色土 10YR2/2 L.B.、O-ム粒中量、植土少量。
第5層 新開褐色土 10YR6/6 L.B.、ローム粒多量、粘土微量。
第6層 黄褐色土 10YR4/6 ローム粒多量。
第7層 にじむ黄褐色土 10YR4/4 粘土層、粘土少量。

第18号 土坑 (G-G')

- 第1層 桜葉褐色土 10YR4/2 L.B. (大)、ローム粒少量、粘土微量。
第2層 黑褐色土 10YR3/2 ローム粒多量、植土中量。
第3層 黑褐色土 10YR3/1 O-ム粒中量、植土、L.B. (大) 微量。
第4層 黑褐色土 10YR3/1 O-ム粒少量、植土微量。
第5層 黑褐色土 10YR2/2 O-ム粒中量、植土微量。
第6層 黑褐色土 10YR2/2 O-ム粒中量、植土微量。
第7層 黑褐色土 10YR2/2 O-ム粒中量、植土微量。
第8層 黑褐色土 10YR2/2 O-ム粒中量、植土微量。
第9層 黑褐色土 10YR2/2 O-ム粒中量、植土微量。
第10層 黑褐色土 10YR2/2 O-ム粒中量、植土微量。
第11層 黑褐色土 10YR2/2 O-ム粒中量、植土微量。
第12層 黑褐色土 10YR2/2 O-ム粒少量、粘土微量。
第13層 黑褐色土 10YR2/2 植土、O-ム粒少量。
第14層 黑褐色土 10YR2/2 O-ム粒多量、粘土微量。
第15層 黄褐色土 10YR6/6 植土、O-ム粒中量。
第16層 黄褐色土 10YR4/4 粘土層。
第17層 黑褐色土 10YR4/4 ローム粒少量、植土微量。
第18層 黑褐色土 10YR2/1 粘土多量、ローム粒少量、植土微量。
第19層 黑褐色土 10YR2/2 粘土中量、植土微量。
第20層 黑褐色土 10YR2/2 粘土、ローム粒中量。

第17号 土坑 (H-H')

- 第1層 黑褐色土 10YR2/2 ローム粒多量、粘土微量。
第2層 黑褐色土 10YR1/1 L.B. (大)、ローム粒中量、粘土少量、炭化物微量。
第3層 黑褐色土 10YR2/2 粘土中量、粘土少量、炭化物 (大) 微量。
第4層 黑褐色土 10YR2/2 粘土多量、ローム粒少量、粘土微量。
第5層 にじむ黄褐色土 10YR4/3 ローム粒中量、粘土微量。

第V-1-16図 第5号建物跡 (2)

第6号建物跡 観察一覧表

位 置	I ~ J - 93~94	図版番号	第V - 1 - 17~19図	写真図版番号	7 - 6
-----	---------------	------	-----------------	--------	-------

重複関係	6, 8, 9, 10, 21, 30, 31, 76M > 6H > 37H
------	---

堅 穴 部	法 量	東 壁	西 壁	南 壁	北 壁	
		壁 長 (m)	(4.49)	4.55	4.64	
		壁 高 (m)	—	—	—	
		周溝-幅 (m)	8	26	17	
周溝深さ (m)		21	28	32	30	
平面形		正方形	床面積 約17.8m ²	主軸方位 N-62°-E		
壁		検出されなかった。		床	平坦である。	
周 壁		一巡していたものと思われる。				
ビ ッ ド		7個検出された。				
主柱穴は、P ₁ ~P ₇ と思われる(壁柱穴)。						
か ま ど		遺存状態 不良。	位 置 東壁の南寄り。			
8Mと30Mの間に焼土 (50×10cm) を検出した。かまどの火床面である。						
堆 積 十		内周溝堆積土のみ検出したのみである。3層に分層され、黒褐色土を主体とし、ローム粒を混入する。				
堆積土-土器破片15						
出土遺物		床面-須恵器壺1 壺胎分析の結果須恵器は織入品と推定された。				
貼床中-土器破片1						
附属施設		掘立柱建物跡1、外周溝-25M、41M、土坑-26土、36土				
※26土は37Hを再利用していると考えられる。						
小 結		重複の位置関係より見て37Hの造り替えの可能性がある。				

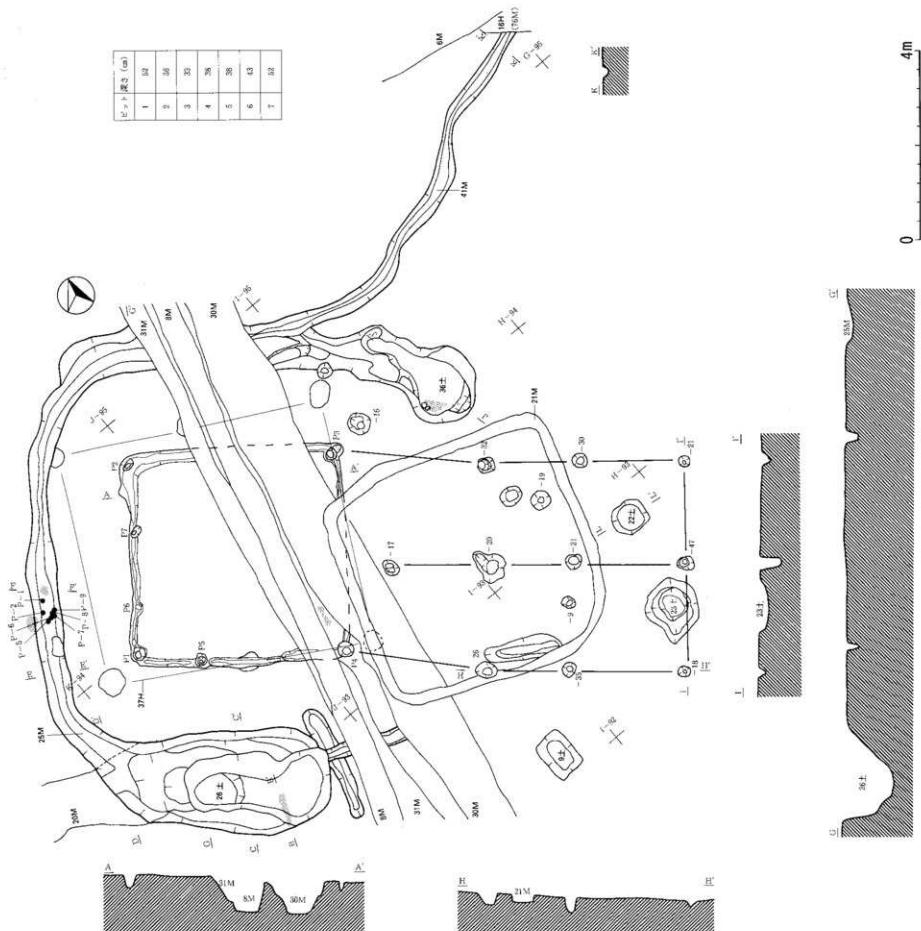
掘 立 柱 部	規 模	桁行3間 (延長7.24m-南) × 梁間2間 (総長4.44m-東)
	平面形式	長方形を呈する東西棟建物跡である。
	柱 穴	径 26cm~90cmの橢円形の掘り方である。
	深 さ	17cm~35cmである。
	柱間寸法	桁行-3.05m (10尺0寸) 、1.76m (5尺8寸) 、2.44 (8尺0寸) 梁間-2.34m (7尺7寸) 、2.10m (6尺9寸)
	出土遺物	なし。
	小 結	竪穴部の面積 (17.8m ²) + 掘立柱部の面積 (32.1m ²) = 約49.9m ² 竪穴部柱穴P ₁ ・P ₇ と連結する。

外 周 溝 部	規 模	長 さ 22.1m	幅 53~60cm	断面形	竪 形
	深 さ	25~30cm	幅 22~30cm	傾 斜	西→東
	堆 積 十	17層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒を混入する。 自然堆積と思われる。			
	出土遺物	堆積土 — 土器破片16、甕83、須恵器壺2、大甕1			
25 M	小 結	西部に検出された焼土、土器は、37Hのカマドに伴ったものと思われる。 丙木端に土坑が付随し、41Mが分歧する。			

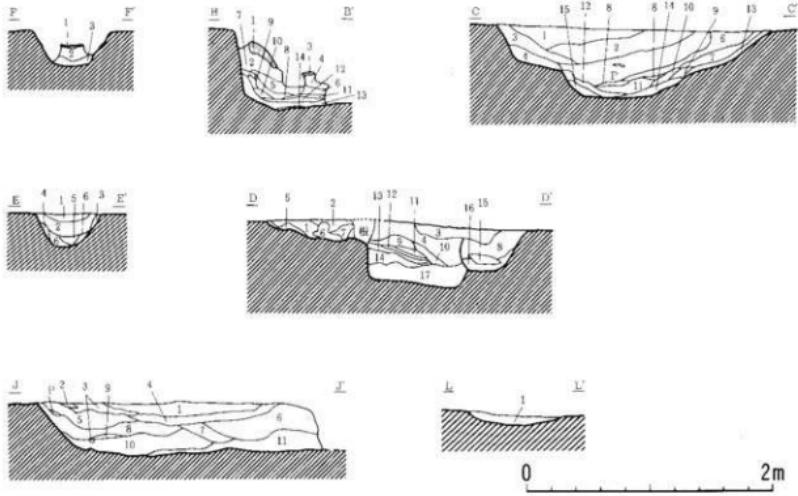
外 周 溝 部	規 模	長 さ (8.80) m	幅 20~42cm	断面形	U字形
	深 さ	13cm	幅 8~22cm	傾 斜	西→東
	出土遺物	堆積土 — 土器破片2、甕5、須恵器壺1、鐵文土器1			
41 M	小 結	25Mから分歧し、16H外周溝に切られる。			

土 坑 ・ 26 土	平面形	椭円形	壁	ゆるやかに立ち上がる	底面	平坦である。
	規 模	長 軸 (410) cm	短 軸	221cm	深 さ	55cm
堆積土 15層に分層された。黒褐色土を主体とし、炭化物、焼土、ローム粒、粘土を混入する。 下半は人為堆積、上半は自然堆積と思われる。						
出土遺物 堆積上 — 土師器環25、須恵器2						
小 結 焼土の廃棄がみられる。破壊したカマドの一部と思われる。37Hのものを転用していると考えられる。						

土 坑 ・ 36 土	平面形	椭円形	壁	直線的に外反する。	底面	やや凸凹がある。
	規 模	長 軸 (270) cm	短 軸	96~167cm	深 さ	41cm
堆積土 11層に分層された。黒褐色土を主体とし、粘土、焼土、炭化物を混入する。 人為堆積と思われる。						
出土遺物 堆積上—土師器53、須恵器4						
小 結 粘土、焼土の廃棄がみられる。破壊したカマドの一部と思われる。						



第V-1-17図 第6号建物跡(1)



鑿穴部 (E-E')

- 第1層 哈褐色土 7.5YR3/4 烟土層、炭化物微量。
第2層 黑褐色土 10YR2/2 煤じり、炭化物、ローム粒微量。
第3層 黑褐色土 10YR2/2 粘土B中量、根土粒微量。

第26号 土坑 (B-B')

- 第1層 哈褐色土 7.5YH3/4 烟土層、煙けた粘土B（大）中量、炭化物微量。
第2層 黑褐色土 10YH2/2 烟土、炭化物、粘土B、ローム粒微量。
第3層 灰褐色土 7.5YV14/3 烟土層、炭化物微量。
第4層 黑褐色土上 10YH2/2 烟土、炭化物、粘土B、ローム粒微量。
第5層 黑褐色土 10YH2/2 烟土粒、炭化物、ローム粒微量。
第6層 黑褐色土 10YR2/2 粘土B、ローム粒微量。
第7層 黑褐色土 10YH2/2 炭化物、ローム粒微量。
第8層 黑褐色土 7.5YR2/1 烟土、ローム粒微量。
第9層 にじく黄褐色土 10YR5/7 ローム層。
第10層 黑褐色土 10YH2/2 ローム中量、炭化物微量。
第11層 黑褐色土 10YH2/2 烟土、ローム粒微量。
第12層 黑褐色土 10YH2/2 烟土、ローム粒微量。
第13層 にじく黄褐色土 10YR4/3 砂質土、粘土B微量。
第14層 黑褐色土 10YH4/4 砂質土。

第26号 土坑 (C-C')

- 第1層 黑褐色土 10YH2/2 炭化物、根土、ローム粒、LB（小）微量。
第2層 黑褐色土 10YH2/2 炭化物、根土、粘土、ローム粒。LB（小）微量。
第3層 黑褐色土 10YH2/2 烟土（小）微量、炭化物、ローム粒微量。
第4層 黑褐色土 10YH2/3 粘土、ローム粒微量。
第5層 黑褐色土 10YH2/2 炭化物、粘土B（大）微量、LB（大）微量。
第6層 黑褐色土 10YH2/2 烟土、粘土B（大）微量。
第7層 黑褐色土 10YH2/2 烟土、粘土B（大）微量。
第8層 黑褐色土 10YH2/2 烟土、粘土B（大）微量。
第9層 黑褐色土 10YH2/2 烟土少量、LB（小）微量。
第10層 黑褐色土 10YH2/3 烟土少量、炭化物、ローム粒微量。
第11層 黑褐色土 10YH2/3 烟土多量、炭化物微量。
第12層 黑褐色土 10YH2/2 粘土、ローム粒少量。
第13層 黑褐色土 10YH2/2 粘土、粘土B。
第14層 黑褐色土 10YH4/4 砂質土。

第25号 土坑 (D-D')

- 第1層 黑褐色土 10YR2/2 ローム粒微量。
第2層 黑褐色土 10YH2/2 ローム粒微量。
第3層 黑褐色土 10YR2/2 ローム粒微量、LB（大）微量。
第4層 黑褐色土 10YH2/2 LB（大）、炭化物、粘土B微量。
第5層 黑褐色土 10YH2/2 LB（大）、炭化物、粘土B微量。
第6層 黑褐色土 10YH2/3 LB（大）、炭化物、粘土B微量。
第7層 黑褐色土 10YH2/3 LB（大）、炭化物、粘土B微量。
第8層 黑褐色土 10YH2/2 LB（大）、炭化物、粘土B微量。
第9層 黑褐色土 10YH2/2 LB（大）、炭化物、粘土B微量。
第10層 黑褐色土 10YH2/2 LB（大）、炭化物、粘土B微量。
第11層 黑褐色土 10YH2/2 LB（大）、炭化物、粘土B微量。
第12層 黑褐色土 10YH2/2 LB（大）、炭化物、粘土B微量。
第13層 黑褐色土 10YH2/2 LB（大）、炭化物、粘土B微量。
第14層 黑褐色土 10YR2/1 ローム粒微量。
第15層 黑褐色土 10YH2/3 粘土B（大）微量。
第16層 黑褐色土 10YH2/3 ローム粒微量、粘土B（大）微量。
第17層 黑褐色土 10YR2/3 ローム粒多量、粘土B（大）微量。

鑿穴部 (E-E')

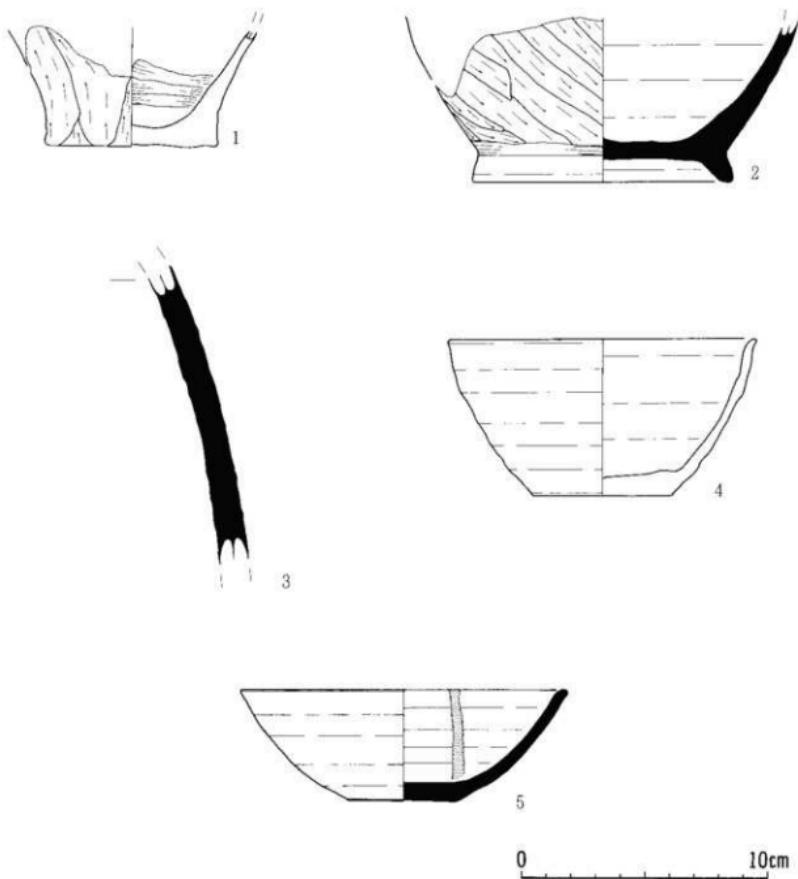
- 第1層 哈褐色土 10YR3/3 ローム粒（小）微量。
第2層 黑褐色土 10YH2/2 ローム粒（大）、LB（大）中量。
第3層 黑褐色土 10YR2/3 ローム粒（大）微量。
第4層 にじく黄褐色土 10YR4/2 LB（大）微量。
第5層 黑褐色土 10YH2/2 ローム粒微量。
第6層 黑褐色土 10YH2/1 ローム粒（小）微量。

第36号 土坑 (J-J')

- 第1層 黑褐色土 10YH2/2 粘土中量、炭土微量。
第2層 にじく黄褐色土 10YH4/3 黏土B、炭化物微量。
第3層 黑褐色土 10YH4/3 黏土中量、粘土、炭化物微量。
第4層 黑褐色土 10YH2/2 黏土、粘土B、炭化物微量。
第5層 黑褐色土 10YH2/2 黑褐色土（大）、粘土B、炭化物微量。
第6層 黑褐色土 10YH2/3 ロームB（大）微量。
第7層 黑褐色土 10YH2/2 黑褐色土（小）、LB（大）微量。
第8層 黑褐色土 10YR2/3 LB（大）微量。
第9層 黑褐色土 10YH2/3 黏土、ローム粒微量。
第10層 黑褐色土 10YH2/3 LB（大）多量、炭土粒（小）微量。
第11層 黑褐色土 10YH2/1 LB（大）微量。

第22号 土坑 (L-L')

- 第1層 黑褐色土 10YH2/2 焙土粒、炭化物、ローム粒微量。



遺物 番号	種類	名称	出土位置	計測値 (cm)	外面調整		内面調整		底面調整	分類	備考	万古 基号	
					口径	器高	底径	口幅	底部上半	底部下半			
1 土範器	甕	25 M フク土	(4.6)	6.9					ヘラサズリ		ヘラナデ		
2 順唐器	長盤?	ノ	(6.6)	10.5					ヘラサズリ ロツロ		ロツロ ヘラナデ	高台付	
3 入 罐	ノ	(11.8)			格子紋 山火日				円筒		柱土分析-39 (日本海側)		
4 土範器	甕	26 土 フク土	12.6	6.3	5.7	ロツロ	ロツロ	ロツロ	ロツロ	ロツロ	ロツロ	脚軋	
5 順唐器	ノ	36 土 フク土	(13.2)	4.4	4.5	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	大ダスキ版 灰白色 脚軋	脚土分析-45 (脚入)

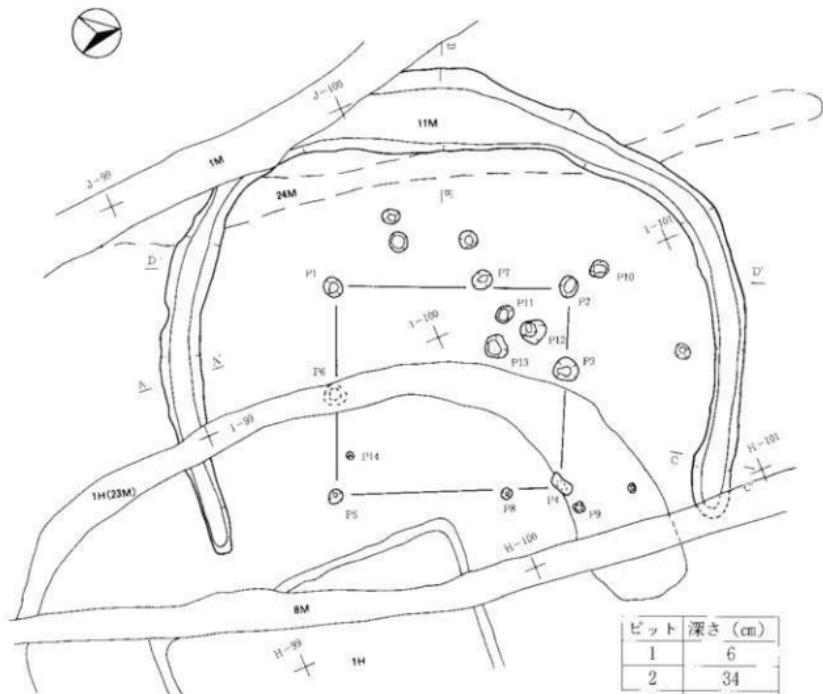
第V-1-19図 第6号建物跡 (3)

第7号建物跡 観察一覧表

位 置 H～I - 99～100	図版番号 第V-1-20～21図	写真図版番号 5-2, 7-7
重複関係 8M(現代)、1M、1H>7H>24M		

壁 部	法量	東 壁	西 壁	南 壁	北 壁
		柱間寸法 (m)	3.62	3.82	3.33
		壁 高 (m)	—	—	—
		周溝一幅 (m)	—	—	—
		周溝深さ (m)	—	—	—
穴 部	平面形	長方形	床面積 約(12.8)m ²	主軸方位 N-119°-E	
	壁	検出されなかった。		床	平坦である。
	周溝	検出されなかった。			
	ピット	14個検出された。土柱穴は、P ₁ ～P ₆ と思われる。			
	かまど	遺存状態 検出されなかった。	位 置	不明である。	
部	堆積土	検出されなかった。			
	出土遺物	なし。			
	附属施設	掘立柱建物跡 - 検出されなかった。外周溝-11M、土坑-なし。			
	小 結	上部がかなり削平されており、七柱穴しか検出できなかった。			
	小 結	第1号建物跡との重複関係や出土遺物から、本建物跡の時期は、9世紀末葉に近い後半と思われる。			

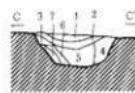
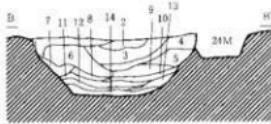
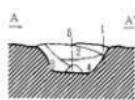
外 周 溝 ・ 11 M	規 模	長 さ 18.4m	幅 63～132cm	断面形 箱 形	
		深 さ 25～44cm	幅 23～62cm	傾 斜 西→東	
堆積土 14層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、粘土を混入する。南・北側は人為堆積、西側は自然堆積と思われる。					
出土遺物 堆積土 - 士器窓1、須恵器窓1、壺1					
小 結 かなり削平されている。					
小 結 タイプ-中央(西側)が幅広く、両端(南側はしつぼ状)が狭まる。					



ピット	深さ(cm)
1	6
2	34
3	38
4	39
5	21
6	-
7	8
8	43
9	-
10	12
11	10
12	34
13	14
14	35



第V-1-20図 第7号建物跡 (1)



第11号 滝跡 (A-A')

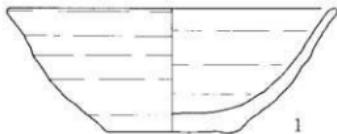
第1層	黒色土	10YR2/1	火山灰、LB少量、ローム粒少量。
第2層	黒褐色土	10YR2/2	LB(大)、ローム粒少量。
第3層	泥褐色土	10YR2/3	LB(大)、多量、ローム粒中量。
第4層	黒色土	10YR2/4	ローム粒少量。
第5層	に古い黄褐色土	10YR6/4	

第11号 滝跡 (B-B')

第1層	黒褐色土	10YR2/2	LB(大)、ローム粒中量、燒土粒微量。
第2層	泥褐色土	10YR3/2	ローム粒中量、燒土粒、炭化物微量。
第3層	泥褐色土	10YR2/2	LB(大)、ローム粒中量、燒土粒、炭化物微量。
第4層	泥褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、燒土粒、粘土粒、炭化物微量。
第5層	泥褐色土	10YR2/2	ローム粒少量、燒土粒、炭化物微量。
第6層	黒褐色土	10YR2/1	ローム粒多量、LB(大)中量、燒土粒少量。
第7層	に古い黄褐色土	10YR6/3	ローム粒多量、燒土粒、粘土粒(大)。
第8層	泥褐色土	10YR2/1	
第9層	黒褐色土	10YR2/1	ローム粒中量、燒土粒、粘土粒(大)。
第10層	泥褐色土	10YR2/1	ローム粒中量、燒土粒、粘土粒、粘土少量。
第11層	に古い黄褐色土	10YR2/1	ローム粒中量、燒土粒、粘土少量。
第12層	泥褐色土	10YR2/2	燒土粒微量。
第13層	灰黄褐色土	10YR4/2	燒土少量、ローム粒微量。
第14層	に古い黄褐色土	10YR6/4	ローム粒多量、LB中量、燒土粒微量。

第11号 滝跡 (C-C')

第1層	泥褐色土	10YR3/2	ローム粒中量。
第2層	泥褐色土	10YR2/1	ローム粒中量。
第3層	黑色土	10YR2/2	ローム粒中量、燒土微量。
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、燒土、炭化物(大)微量。
第5層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒多量、粘土中量、LB(大)少量。
第6層	泥褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、燒土、LB(大)微量。
第7層	に古い黄褐色土	10YR6/3	LB多量。



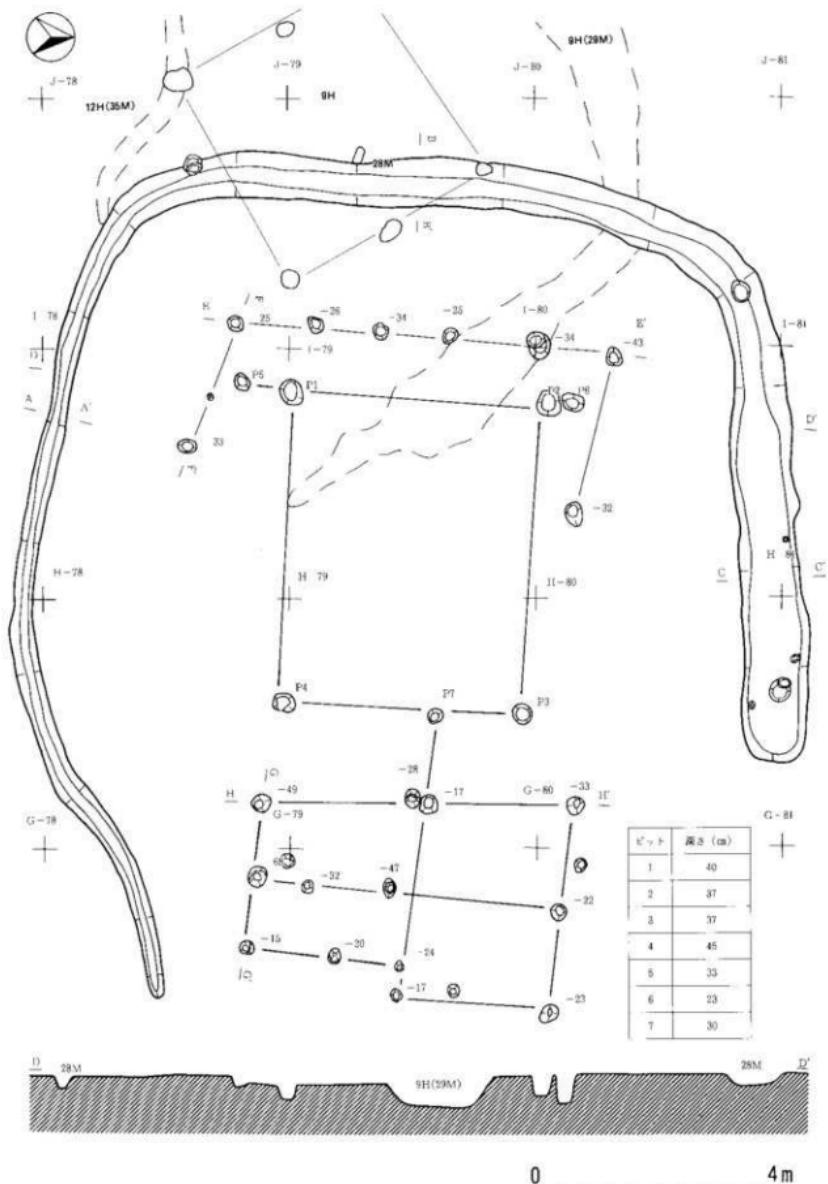
0 10cm

遺物 番号	種類	器種	出土位置	計画値(cm)	外面調査				内面調査				前面調査	分類	備考	写真 番号
					口径	高さ	底径	口幅	断面	体部上半	体部下半	口幅下半				
1	七面器	环	II M アラ土	13.4	4.9	5.1	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転系切		砂土分析 - 56 (五重川原)	
2	須恵器	-	-	(15.0) (5.1)	(6.5)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

第V-1-21図 第7号建物跡 (2)

第8号建物跡 調査一覧表

位置	G～H-93～94	図版番号	第V-1-22～24図	写真図版番号	8-1、2
重複関係	8H>9H>12H				
壁 法 量	柱間寸法 (m)	東 壁	西 壁	南 壁	北 壁
	壁 高 (m)	—	—	—	—
	周溝～幅 (m)	—	—	—	—
	周溝深さ (m)	—	—	—	—
	平面形	長方形	床面積	約 (19.6) m ²	主軸方位 N-85°-E
	礎	検出されなかった。		床	平坦である。
	周 壁	検出されなかった。			
	ビット	6個検出された。 主柱穴は、P ₁ ～P ₆ と思われる。			
	かまど	遺存状態 検出されなかった。	位 置	不明である。	
	堆積土	検出されなかった。			
部 附 属 施 設	出土遺物	柱穴堆積土-土器器窯1			
	掘立柱建物跡	掘立柱建物跡1、外周溝-28M、土坑-なし。			
	西側に「コ」字形の壇場の施設				
小 結	かなり削平されており、主柱穴のみが検出された。				
	第9号、第12号建物跡との重複関係や出土遺物から、本建物跡の時期は、10世紀前半と思われる。				
掘 立 柱 部	規 模	桁行2間(総長5.14m-西)×梁行2間(総長3.36m-北)			
	平面形式	いびつな長方形を尾する東西棟建物跡である。			
	柱 穴	径 15cm～32cmの円形の掘り方である。			
	深 さ	17cm～68cmである。			
	柱間寸法	桁行 — 2.74m(9尺0寸)、2.40m(7尺9寸) 梁行 — 1.74m(5尺7寸)、1.62m(5尺3寸)			
	出土遺物	なし。			
	小 結	堅穴部の面積(19.6m ²)+掘立柱部の面積(10.4m ²)=約30.0m ² (約18疋)			
	規 模	桁行5間(総長6.21m-西)×梁行1間(総長2.56m-北)			
	平面形式	「コ」字形を呈する櫛列と思われる施設である。			
	柱 穴	径 22cm～47cmの楕円形の掘り方である。			
柱 部	深 さ	25cm～43cmで、ほぼ均一である。			
	柱間寸法	桁行 — 1.30m(4尺3寸)、1.06m(3尺5寸)、1.14m(3尺7寸) 1.46m(4尺8寸)、1.25m(4尺1寸) 梁行 — 2.56m(8尺4寸)、及び2.10m(6尺4寸)			
	出土遺物	なし。			
2	小 結	堅穴部の西側を開口形で、防風雪の施設とも考えられる。			
	規 模	長 さ 31.4m	幅 29～96cm	断面形 U字形	
外 周 溝 ・ 28	深 さ	6～28cm	幅 10～28cm	傾 斜	西→東
	堆積土	7層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、粘土を混入する。 人為堆積と思われる。			
	出土遺物	堆積土 — 土器器窯1、甕14、須恵器壺1、鉄製品1 柱穴堆積 - 土器器窯1。			
M	小 結	かなり削平されている。 タイプ-南側は末端が次第にしつぽ状に狭まり、北側は幅が広がる。			



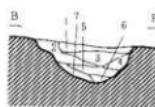
第V-1-22図 第8号建物跡 (1)



第28号 滝跡 (A-A')

第1層 灰褐色土 10YR3/3
第2層 黑褐色土 10YR3/2

□ - ム粒少量。
○ - ム粒少量。



0 2m

第28号 滝跡 (B-B')

第1層 黒褐色土 10YR2/2
第2層 黑色土 10YR2/1
第3層 黑褐色土 10YR2/2
第4層 黑褐色土 10YR2/2
第5層 黑色土 10YR2/1
第6層 黑褐色土 10YR2/2
第7層 黑褐色土 10YR3/1

板上物。△ - A粒少量。炭化粒微量。

○ - A粒少量。

□ - A粒中量。

○ - A粒少量。

△ - A粒少量。

粘土中量。△ - A粒微量。

第1層 黒色土 10YR1/1
第2層 黑色土 10YR3/4

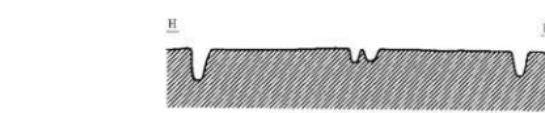
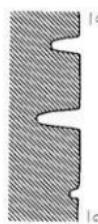
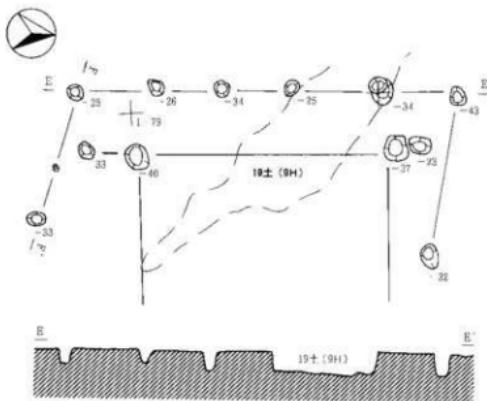
□ - ム粒(小)中量、△, ○(小)微量。



第28号 滝跡 (H-H'付近) (C-C')

第1層 黒色土 10YR1/1
第2層 黑色土 10YR3/4

□ - ム粒(小)中量、△, ○(小)微量。



0 4m

第V-1-23図 第8号建物跡 (2)



遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm)	外面調整		内面調整		壁面調査	分類	備考	写真番号
					口縁	底縁	口縁	底縁				
1	土師器	杯	28M ラク土	28.5 (15.0) 5.5 (6.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転茶碗	ハクリ	

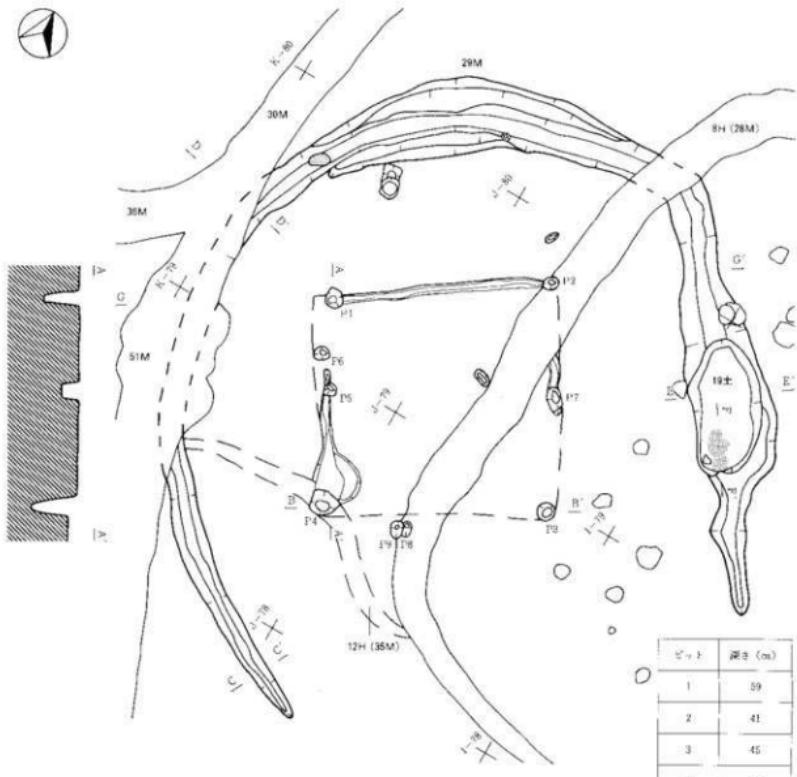


遺物番号	種類	器種	出土位置	高(マサ)幅(マサ)厚(マサ)重(g)	特徴		参考	礫石付力%	断面
					高	幅			
2	鉢製品	不明	8H SU1028構跡 土中	36.0 39.0 10.0 13.6	中央部が薄い			×	24

第V-1-24図 第8号建物跡（3）

第9号建物跡 観察一覧表

位番	I～J-78～79	図版番号	第V-1-25～26図	写真図版番号	8-2～4	
重複関係 30M、51M、8H>9H>12H						
堅	柱間寸法(m)	東壁	西壁	南壁	北壁	
	壁高(m)	3.72	4.00	3.64	3.89	
	周溝-幅(m)			16	16	15
	周溝深さ(m)		10		5	20
平面形	正方形	床面積 約(10.5)m ²		上軸方位 N-140°-E		
壁	検出されなかった。		床	ほぼ平坦である。		
周壁	北西壁及び南西壁と東北壁の一部を巡る。					
穴	ビット	9個検出された。 主柱穴は、P ₁ ～P ₉ と思われる。				
	かまど	遺存状態 検出されなかった。	位置	不明である。		
	堆積土	検出されなかった。				
	出土遺物	なし。				
附属施設	掘立柱建物跡-検出されなかった。外周溝-29M、土坑-19上					
小結	かなり削平されていて、からうじて内周溝を検出したのみである。					
	第8号、第12号建物跡との重複関係や出土遺物から、本建物跡の時期は、9世紀末～10世紀初頭と思われる。					

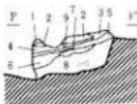
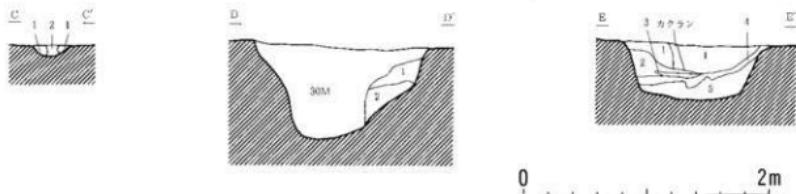


ピット	深度 (m)
1	59
2	41
3	45
4	54
5	31
6	16
7	23
8	22
9	30



第V-1-25図 第9号建物跡 (1)

外 周 溝 ・ 29 M	規 模	長 さ 23.2m 深 さ 9~40cm	幅 30~124cm 幅 10~27cm	断面形	箱形
	堆 積 土	2層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、粘土を混入する。 人為堆積と思われる。			
	出土遺物	堆積土 — 十字器環6、甕22			
	小 結	削平されている。 タイプ—南側は末端がしつぼ状に狭まり、北側は十坑が付随し、外周溝が更にしつぼ状に延びる。			
十 坑 ・ 19 土	平面形	橢円形	壁	ゆるやかに立ち上がる	底 面
	規 模	長 軸 214cm	短軸 126cm		深 さ 44cm
	堆 積 土	8層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、粘土を混入する。 人為堆積と思われる。			
	出土遺物	堆積土 — 十字器環9			
	小 結	粘土・焼土の廃棄がみられる。			



第29号 廻跡 (C-C')

第1層 黑褐色土 10YH2/3 焼土 (小)、L.B (小)、ローム粒微量。
第2層 黑褐色土 10YR3/3 L.B (小) 多量、燒土 (小) 微量。

第29号 廻跡 (D-D')

第1層 黑褐色土 10YH2/2 I.H (小)、ローム粒少量、燒土時、炭化粒、灰化物。
第2層 黑褐色土 10YH2/2 I.H (小) 中量、炭化物 (小)、灰化物。

第19号 土坑 (E-E')

第1層 黑褐色土	I.DYH2/2	I.H (大) 多量、灰化物。
第2層 黑褐色土	10YTG2/2	L.B (少) 少量、燒土 (小)、灰化物。
第3層 黑褐色土	10YH3/3	I.H (小) L.B (少) 微量。
第4層 黑褐色土	10YH2/2	L.B (小) 少量、灰化物。
第5層 黑褐色土	10YH2/2	I.H (大) 多量、ローム粒中量、燒土、灰化物。

第19号 土坑 (F-F')

第1層 黑褐色土	10YH2/3	燒土粒、炭化物少量、燒土微量。
第2層 黑褐色土	10YH1/4	燒土粒微量。
第3層 黑褐色土	10YH3/2	燒土中量。
第4層 黑褐色土	10YH3/3	燒土粒、ローム粒少量、炭化物微量。
第5層 黑褐色土	10YH3/1	ローム粒少量。
第6層 黑褐色土	10YH2/2	燒土、ローム粒少量。
第7層 黑褐色土	10YH3/1	燒土、燒土粒、炭化粒、ローム粒微量。
第8層 黑褐色土	10YH3/2	L.B (大) 多量、燒土微量。
第9層 黑褐色土	10YH3/3	燒土多量、炭化物少量、燒土微量。

第V-1-26図 第9号建物跡 (2)

第10号建物跡 観察一覧表

位置	I~M-88~89	国版番号	第V-1-27~30図	写真国版番号	5-3-5,7,8,6-3,8-5-8
----	-----------	------	-------------	--------	---------------------

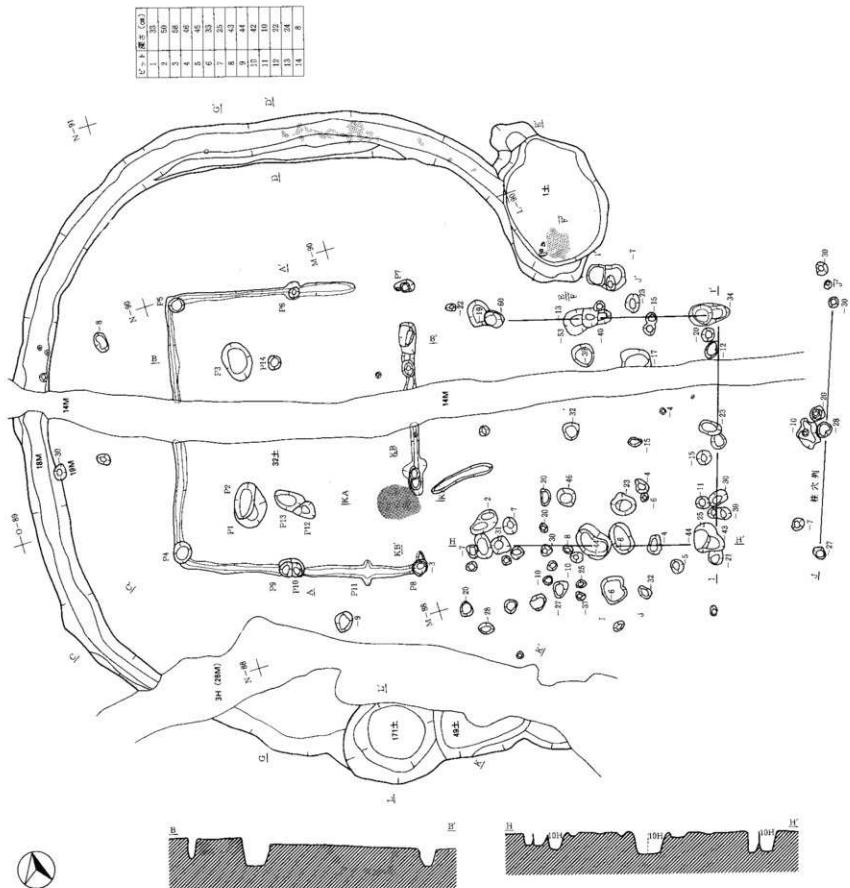
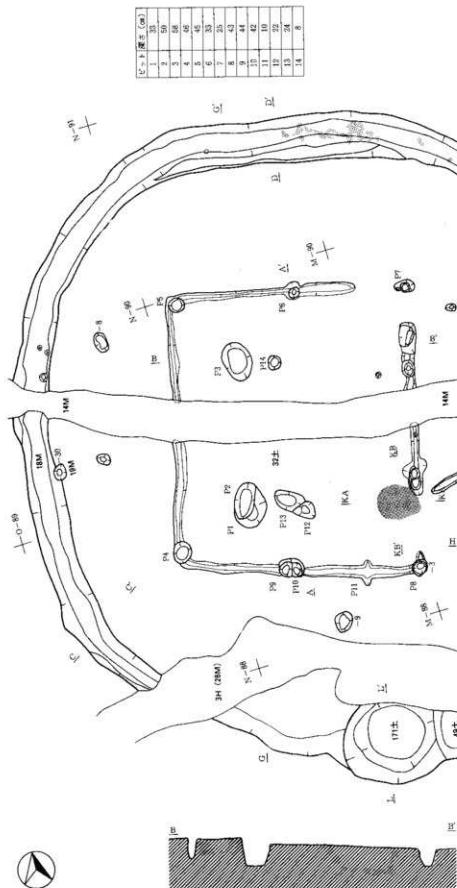
重複関係	3H>10H (2Hを拡張) >2H 14H>10H (2Hを拡張) >2H
------	---

堅 穴 部	法 量	東 壁	西 壁	南 壁	北 壁						
		壁 長 (m)	(6.24)	5.88	5.37						
		壁 高 (m)	—	—	—						
		周溝一幅 (m)	(38)	20	22						
		周溝深さ (m)	(24)	43	7						
平面形		長方形	床面積 約 (27.2) m ²	主軸方位	N-101°-E						
壁		検出されなかった。		床	ほぼ平坦である。						
周 溝		南・西壁及び北壁の4分の3を巡る。※東壁は2Hと同じ									
ビ ク ド		14個検出された。 主柱穴はP ₁ 、P ₂ 、壁柱穴はP ₃ ～P ₁₁ と思われる。									
か ま ど		遺存状態 不良	位 置 東壁の南寄り。								
火床面		火床面 (90cm×75cm) のみが検出された。人為的に破壊されていると思われる。									
堆 積 土		内周溝堆積土のみ検出された。4層に分層され、黒褐色を主体とし、ローム粒を混入する。									
部		確認面堆積土 — 上師器壺24	貼床中 — 上師器壺1、鉄製品1(釘)								
出上遺物		堆積土 — 須恵器杯1、壺2									
		床面 — 上師器壺3									
		かまと堆積土 — 須恵器杯1									
附屬施設		掘立柱建物跡1棟、外周溝-18M、土坑-1土、49土、171土、柱穴列1基 (2Hにも併載)									
小 結		2Hを拡張したものである上部がかなり削平されている。									

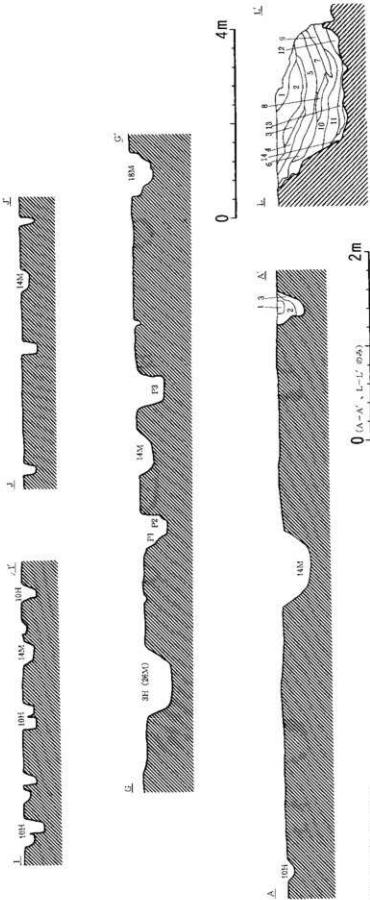
掘 立 柱 部	規 模	桁行2間(總長4.60m-南)×奥間2間(總長4.85m-東)						
	平面形式	ほぼ正方形を呈する東西棟建物跡である。2H掘立柱を拡張している。						
	柱 穴	径 40cm~75cmの橢円形の掘り方である。						
	柱間寸法	深さ 31cm~60cmである。						
	柱間寸法	桁行 — 2.15m (7尺1寸)、2.45m (8尺1寸) 梁間 — 2.15m (7尺1寸)、2.70m (8尺9寸)						
	出上遺物	なし。						
	小 結	豎穴部の面積 (27.2m ²) + 掘立柱部の面積 (23.4m ²) = 約50.6m ²						

外 周 溝 ・ 18 M	規 模	長さ 22.9m	幅 55~71cm	断面形	箱形
	深さ	31cm	幅 18~42cm	傾 斜	西→東
	堆 積 土	11層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、粘土を混入する。 人為堆積と思われる。			
	出上遺物	堆積土 — 土師器壺15、甕65、須恵器杯1、壺4、鉄製品1(刀子)			
	小 結	粘土の発現が北側に見られる。 両端に土坑が付随する。			

土 坑 ・ 171 土	規 模	平面形 円形	壁 ゆるやかに立ち上がる	底 面	ほぼ平坦である。
	堆 積 土	長軸 (186cm)	短軸 (172cm)	深さ	74cm
	出土遺物	14層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、粘土を混入する。 人為堆積と思われる。			
	小 結	なし			

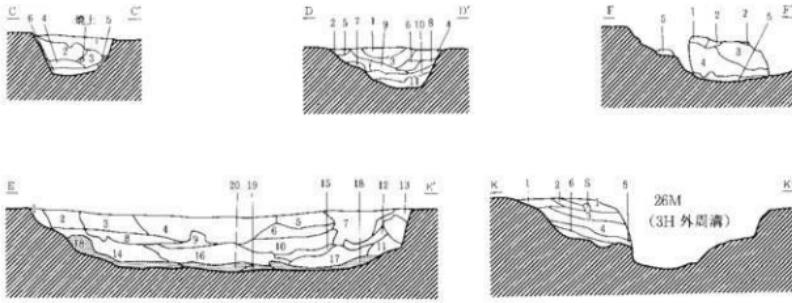


第V-1-27図 第10号建物跡(1)



第V-1-27図 第10号建物跡(1)
1970年7月撮影
ローダー L. ハーフ H. ハーフハーフ HH.
ハーフハーフ少 HHS.
ハーフ少 HS.
ハーフ少少 HSS.
ハーフ少少少 HSSS.

上 机 ・ 1 十	平面形 況	横内幅 長軸 370m	壁 幅軸 228m	底 面幅 44m
	堆積上 人為堆積と思われる。	20層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム層、燒土、粘土、炭化物を含むする。		
出土遺物 小 物	地質上 人為堆積と思われる。	土砂 22.6t、重石器 7		
出土遺物 小 物	粘土、焼土の夾層がみられる。			
土壤 49	平面形 況	長軸 200m	壁軸 110m	底面 内あり 深さ 40m
堆積上 人為堆積と思われる。	6層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム層、燒土、炭化物を含むする。			
出土遺物 小 物	なし			



第16号 土坑 (C-C')

第1層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物、ローム粒少量。
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 LB (A) (少), ローム粒少量。
 第3層 黒褐色土 10YR2/3 焼土、ローム粒微量。
 第4層 黒褐色土 10YR2/1 ローム粒中量。
 第5層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒中量。
 第6層 黒褐色土 10YR3/2 烧土多量, LB中量。

第18号 土坑 (D-D')

第1層 黑褐色土 10YR4/2 ローム粒少量、LB (大) 微量。
 第2層 黑褐色土 10YR3/2 LB (少), ローム粒微量。
 第3層 黑褐色土 10YR3/2 土砂層、燒土、炭化物、ローム粒微量。
 第4層 黑褐色土 10YR3/4 土砂層、燒土、炭化物、ローム粒微量。
 第5層 黑褐色土 10YR2/1 ローム粒少量、炭化物微量。
 第6層 黑褐色土 7.5YR4/4 物質混入。
 第7層 黑褐色土 10YR2/1 烧土、炭化物微量。
 第8層 黑褐色土 10YR2/3 烧土、ローム粒微量。
 第9層 黑褐色土 10YR2/2 黑褐色土、炭化物、ローム粒微量。
 第10層 黑褐色土 10YR2/2 烧土層。
 第11層 黑褐色土 10YR2/2 烧土層、颗粒微量。

第19号 土坑 (E-E')

第1層 黑褐色土 10YR3/3 烧土層、炭化物粒少量、粘土B (大) 程度。
 第2層 黑褐色土 10YR2/1 烧土層、ローム粒少量、炭化物微量。
 第3層 黑褐色土 10YR2/1 粘土B 中量、ローム粒微量。
 第4層 黑褐色土 10YR2/2 烧土B, LB少量、焼土、ローム粒微量。
 第5層 黑褐色土 10YR2/2 烧土層。

第17号 土坑 (L-L')

第1層 黑褐色土 10YR2/2 LB (大), ローム粒多量。
 第2層 黑褐色土 10YR2/2 烧土層、ローム粒微量。
 第3層 黑褐色土 10YR2/2 烧土層、炭化物粒微量。
 第4層 黑褐色土 10YR2/1 烧土B, LB少量、焼土、ローム粒微量。
 第5層 黑褐色土 10YR2/2 ローム粒少量、焼土B, 炭化物微量。
 第6層 黑褐色土 7.5YR2/2 ローム粒 (大) 少量。
 第7層 黑褐色土 10YR2/3 ローム粒微量。

第1号 土坑 (E-E')

第1層 烧土 10YR4/1 ローム粒微量。
 第2層 烧成粘土 10YR2/3 ローム粒微量。
 第3層 黑褐色土 10YR2/3 黑褐色土、炭化物微量。
 第4層 黑褐色土 10YR2/3 LB (大) 少量、焼土、粘土、炭化物。

第5層 黑褐色土 10YR2/2 烧土、炭化物、ローム粒微量。
 第6層 黑褐色土 10YR2/2 烧土、炭化物、ローム粒微量。
 第7層 黑褐色土 10YR2/2 烧土、炭化物、ローム粒微量。
 第8層 黑褐色土 10YR2/2 烧土、炭化物、ローム粒微量。

第9層 黑褐色土 10YR2/2 烧土、炭化物、ローム粒微量。
 第10層 黑褐色土 10YR2/2 烧土、炭化物、ローム粒微量。
 第11層 黑褐色土 10YR2/2 烧土、炭化物、ローム粒微量。

第12層 黑褐色土 10YR2/2 烧土、炭化物、ローム粒微量。
 第13層 黑褐色土 10YR2/2 烧土、炭化物、ローム粒微量。
 第14層 黑褐色土 10YR2/2 烧土、炭化物、ローム粒微量。

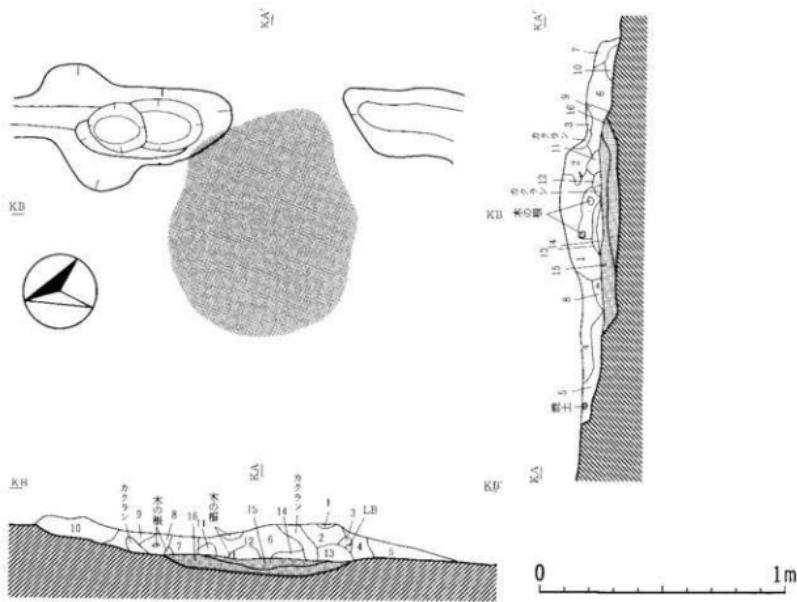
第49号 土坑 (K-K')

第1層 黑褐色土 10YR2/2 烧土層、ローム粒 (少) 微量。
 第2層 黑褐色土 7.5YR4/4 烧土層、ローム粒微量。
 第3層 黑褐色土 10YR2/2 烧土層、ローム粒微量。
 第4層 黑褐色土 10YR2/3 烧土層、ローム粒 (少) 微量。
 第5層 黑褐色土 10YR2/2 烧土層、ローム粒微量。

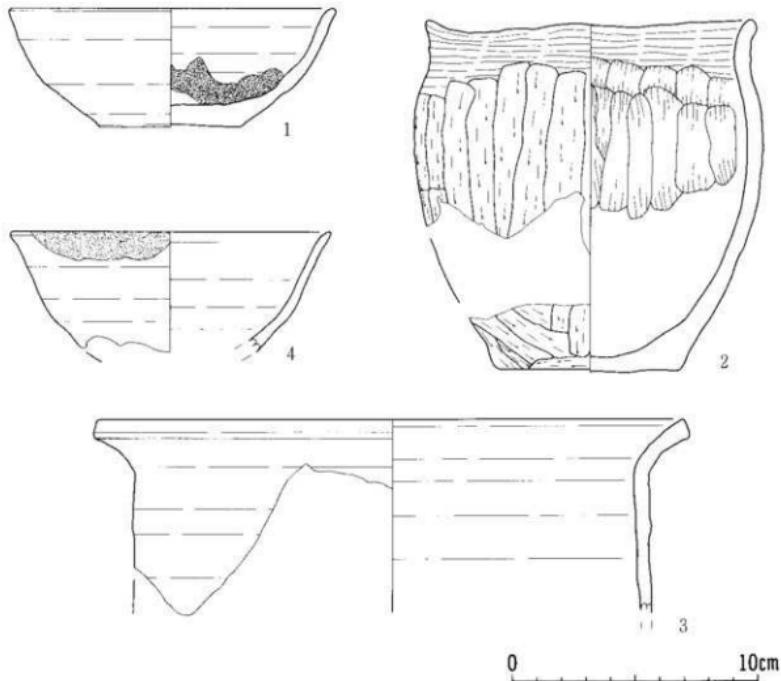
第6層 黑褐色土 10YR2/2 烧土層。

第8層 黑褐色土 10YR2/2 烧土層、ローム粒 (少) 少量。
 第9層 黑褐色土 10YR2/2 烧土層、ローム粒微量。
 第10層 黑褐色土 10YR2/2 烧土層、ローム粒微量。
 第11層 黑褐色土 10YR2/2 ローム粒少量。
 第12層 黑褐色土 10YR2/2 ローム粒微量。
 第13層 黑褐色土 10YR2/2 烧土層 (大) ローム粒微量。
 第14層 黑褐色土 10YR2/2 烧土層 (少) 微量。

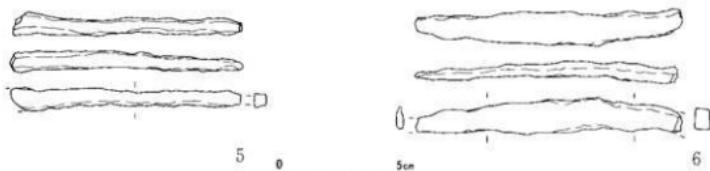
第V-1-28図 第10号建物跡 (2)



第V-1-29図 第10号建物跡 (3)



遺物 番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm)		外面調査		内部調査		区分	分類	備 考	名古 番号	
				口径	底径	高さ	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縫部	体部上半	体部下半	
1	土器器	环	18M 底面 環穴部 フク土	13.0	4.8	5.6	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ハクリ、磨耗	
2	"	環	14.5 (7.7) フク土	14.1	7.7	9.0	タコナデ ヘラキズリ	タコナデ ヘラキズリ	タコナデ ヘラキズリ	タコナデ ヘラキズリ	タコナデ ヘラキズリ	タコナデ ヘラキズリ		
3	"	環	(21.0) (7.7)				ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ		
4	"	環	13.0 (4.8) フク土	13.0	4.8	5.6	ア	ア	ロクロ	ア	ア	ロクロ	スヌ、磨耗、ハクリ	



遺物 番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm)		特 徴	備 考	礫石 付力 No.	整理 番号	
				長(cm)	幅(cm)					
鉄製品	剪	環穴部 粘土中	93.0	10.0	9.0	7.5	細削・先端が欠損	32土坑上面 ド-5 分析実験	X	02
鉄製品	刀子	18M 覆土	118.0	15.0	9.0	12.8	茎部・刃先欠損 刃部に間あり 背部に闇なし		X	17

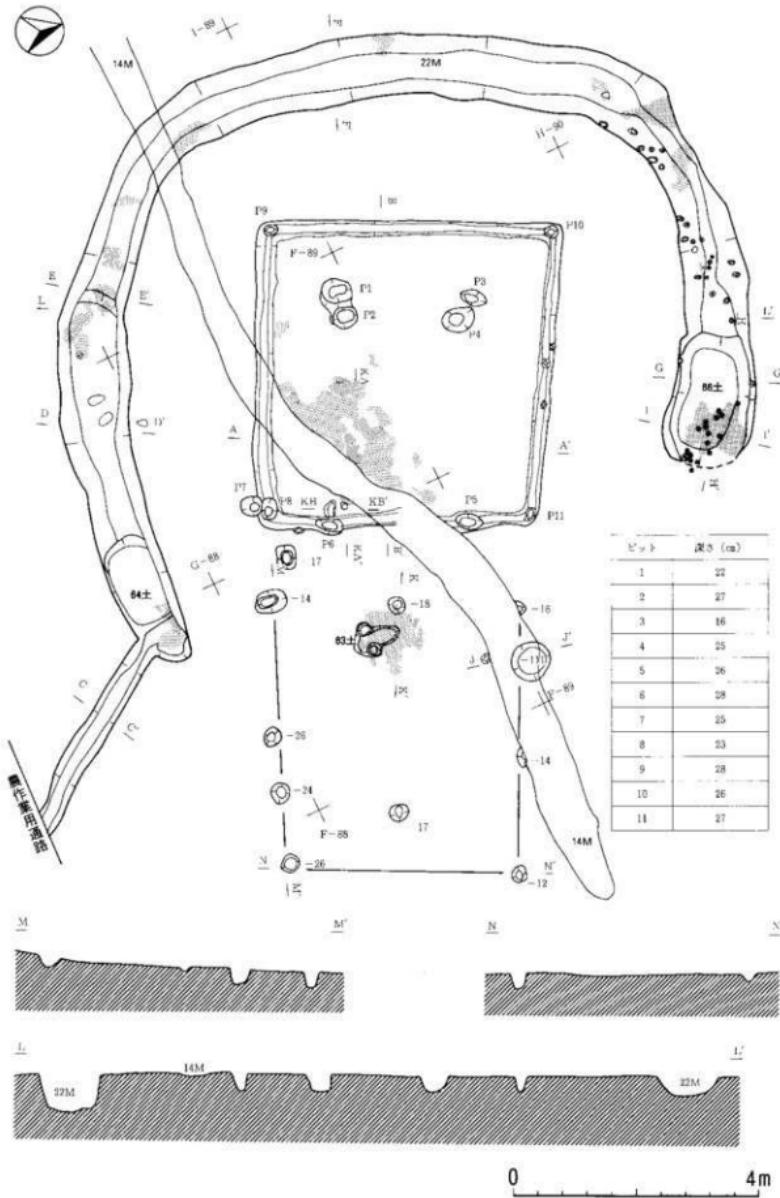
第V-1-30図 第10号建物跡(4)

第11号建物跡 観察一覧表

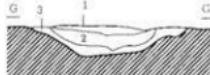
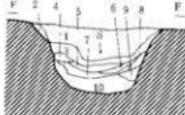
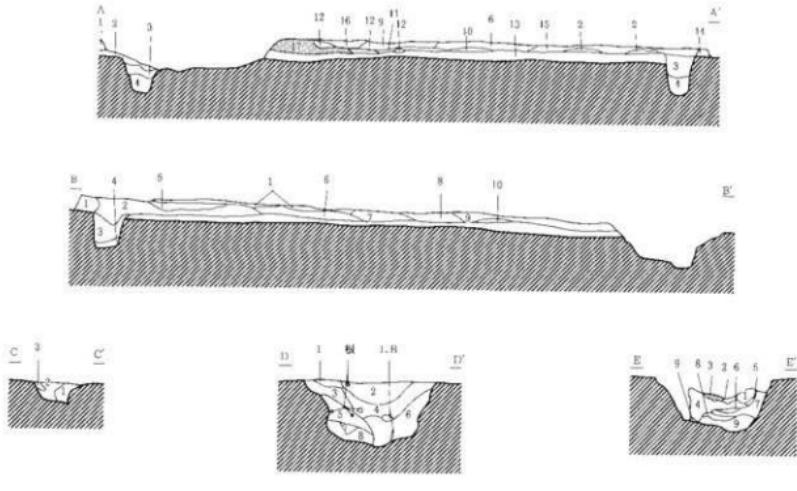
位 置	F～H-88～89	図版番号	第V-1-31～37図	写真図版番号	9-1,2,3,4,5,6,7,8
-----	-----------	------	-------------	--------	-------------------

重複関係 14M>11H

壁 量 法	東 壁 西 壁 南 壁 北 壁	東 壁		西 壁		南 壁		北 壁											
		壁 長 (m)	4.56	壁 高 (m)	—	壁 高 (m)	4.92	壁 高 (m)	4.97										
		周溝一輻 (m)	20	周溝深さ (m)	24	周溝一輻 (m)	27	周溝深さ (m)	28										
		周溝深さ (m)	24	周溝一輻 (m)	25	周溝深さ (m)	27	周溝一輻 (m)	25										
		平面形	正方形	床面積	約19.4m ²	主軸方位	N-107°-E												
穴 部	壁	検出されなかった。		床		平坦である。													
	窓							一部分は14Mに破壊されているが、一巡する。											
	ピット							10個検出された。 主柱穴は、P ₁ ～P ₆ と思われる。堅穴部の4隅に柱穴が見られる。											
	かまと	遺存状態	不良	位 数	1位	數 東壁の南寄り													
		粘土・焼土が散乱した形で検出された。(14Mの影響)																	
	かまと	玄支脚に用いられた土師器壺底部が出土した。																	
	堆積土	16層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、炭化物を混入する。 人為堆積と思われる。																	
部	堆積土	堆積土 — 上土師器壺3、甕14																	
	出土遺物	床 面	土師器壺1、甕20、須恵器大甕1、鉄製品1(刀子)、土製品	貼床中	土師器壺1、甕3														
		貼床中	土師器壺1、須恵器壺1																
		かまと床面	土師器壺2																
		附属施設	掘立柱建物跡1、外周溝-22M、土坑-64土、66土																
備 考																			
掘 立 柱 部	規 模	桁行2間(総長4.22m-南)×梁間1間(総長3.62m-東)																	
	平面形式	長方形を呈する東西棟建物跡である。																	
	柱 穴	径	22cm～64cmの円形の掘出方である。																
		深 さ	14cm～26cmである。																
		柱間寸法	桁行 — 2.16m(7尺1寸)、0.96m(3尺2寸)、1.10m(3尺6寸)	梁間 — 3.62m(12尺0寸)															
出土遺物	出土遺物	なし。																	
		小 結	堅穴部の面積(19.4m ²) + 掘立柱部の面積(15.3m ²) = 約34.7m ²																
	外周溝 ・ 22 M	規 模	長 さ 23.0m	幅 87～107cm	断面形 U字形														
			深 さ 45～51cm	幅 47～54cm	傾 斜 西→東														
		堆積土	10層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼土、粘土、炭化物を混入する。 上位は自然堆積、下位は人為堆積と思われる。																
出土遺物		堆積土 — 十土師器壺13、甕152、須恵器壺1、大甕1、鉄製品2	古錢、陶磁器																
		小 結	粘土・焼土の廃棄がみられる。カマドの破壊行為に伴うものと思われる。 両端に土坑が付隨し、64土から南側にはさらに外周溝が延びる。																
土 坑 ・ 64 土	平 面 形	楕円形	壁	直線的に外反する。	底 面	平坦である。													
	規 模	長 軸 (142) cm	短 軸	96cm	深 さ	51cm													
	出土遺物	なし。																	



第V-1-31図 第11号建物跡 (1)



0 1 2 m

第11号 建物跡 (A-A'), (B-B')

- 第1層 黑褐色土 10YR2/3
 第2層 黑褐色土 10YR2/3 L.B.(小) 多量、灰白色土少量。
 第3層 黑褐色土 10YR2/3 □-ム粒中量、LB(大) 少量。
 第4層 黑褐色土 10YR2/2 □-ム粒少量。
 第5層 黑褐色土 10YR2/2 □-ム粒微量。
 第6層 黑褐色土 10YR2/2 □-ム粒少量、灰白色土少量。
 第7層 黑褐色土 10YR2/2 L.B.、□-ム粒微量。
 第8層 黑褐色土 10YR2/2 □-ム粒少量、灰白色土少量。
 第9層 黑褐色土 10YR2/2 灰土、□-ム粒微量。
 第10層 黑褐色土 10YR2/2 灰土、L.B. 少量、灰白色土少量。
 第11層 黑褐色土 10YR2/3 □-ム粒中量、灰白色土中量。(図版4)
 第12層 黑褐色土 10YR2/2 LB(大)、L.B. 少量。
 第13層 黑褐色土 10YR2/2 LB(大)、□-ム粒微量。
 第14層 黑褐色土 10YR2/2 □-ム粒、灰土少量。
 第15層 黑褐色土 10YR2/2 □-ム粒中量、灰白色土微量。

第11号 建物跡 (E-E')

- 第1層 黑褐色土 10YR2/2 L.D.、□-ム粒多量、灰土、炭化物微量。
 第2層 黑褐色土 10YR2/3 灰土少量、□-ム粒微量。
 第3層 黑褐色土 10YR2/3 □-ム粒微量。
 第4層 黑褐色土 10YR2/2 灰土粒、□-ム粒微量。
 第5層 黑褐色土 10YR2/2 灰土粒、□-ム粒微量。
 第6層 黑褐色土 10YR2/1 灰土、炭化物、□-ム粒微量。
 第7層 黑褐色土 10YR2/2 灰土粒、□-ム粒微量。
 第8層 黑褐色土 10YR2/1 灰土粒微量。
 第9層 黑褐色土 10YR2/1 □-ム粒多量、灰土(B(大))、灰土、粘土(B(大)) 少量。

第22号 建物跡 (C-C')

- 第1層 黑褐色土 10YR2/2 □-ム粒微量。
 第2層 黑褐色土 10YR2/2 L.B.、□-ム粒微量。
 第3層 黑褐色土 10YR4/4 □-ム粒。

第22号 建物跡 (D-D')

- 第1層 黑褐色土 10YR2/2 □-ム粒微量。
 第2層 黑褐色土 10YR2/3 L.B. (大)、□-ム粒微量。
 第3層 黑褐色土 10YR2/3 灰化物。
 第4層 黑褐色土 10YR2/3 L.B. (大)、□-ム粒中量、粘土微量。
 第5層 黑褐色土 10YR2/1 □-ム粒微量。
 第6層 黑褐色土 10YR2/2 灰化物、□-ム粒(大) 微量。
 第7層 黑褐色土 10YR2/2 □-ム粒微量。
 第8層 黑褐色土 10YR2/1 粘土多量、□-ム粒少量。
 第9層 黑褐色土 10YR2/1 粘土B (人) 多量。

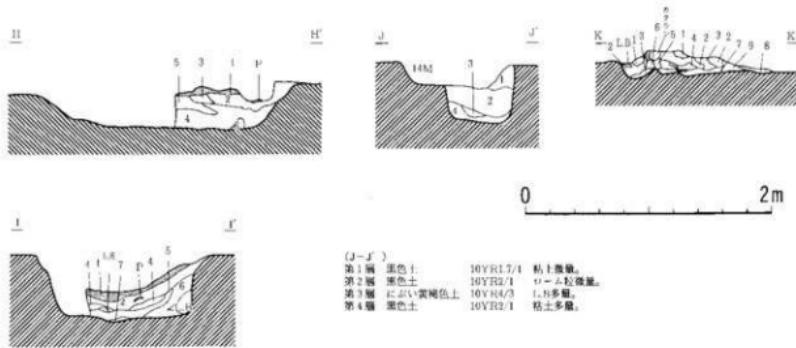
- 第1層 黑褐色土 10YR2/2 L.B. (大)、□-ム粒中量、粘土B (人) 少量、灰化物微量。
 第2層 黑褐色土 10YR2/3 □-ム粒少量、灰化物微量。
 第3層 黑褐色土 10YR2/1 灰化物、L.B. (大)、□-ム粒微量。
 第4層 黑褐色土 10YR2/1 □-ム粒微量。
 第5層 黑褐色土 10YR2/1 □-ム粒微量。
 第6層 黑褐色土 10YR2/1 □-ム粒少量。
 第7層 黑褐色土 10YR2/1 □-ム粒微量。
 第8層 黑褐色土 10YR2/1 □-ム粒中量。
 第9層 黑褐色土 10YR2/1 L.H. 少量。
 第10層 黑褐色土 10YR2/2 粘土B、□-ム粒中量。

第66号 土坑 (G-G')

- 第1層 黑褐色土 10YR2/2 □-ム粒少量、灰土、炭化物微量。
 第2層 黑褐色土 10YR2/2 □-ム粒中量、L.H. (大) 少量。
 第3層 黑褐色土 10YR2/1 □-ム粒少量。

第V-1-32図 第11号建物跡 (2)

土 坑 ・ 66 土	平面形	楕円形	壁	ゆるやかに立ち上がる	底面	ほぼ平出である。
	規 模	長軸: 211cm	短軸	136cm	深さ	29cm
	堆 積 土	3層に分層された。黒褐色を主体とし、ローム粒を混入する。				
	出土遺物	下半は人為堆積、上半は自然堆積と思われる。埋土中位で火をたいていると思われる(T-T')				



第66号 土坑 (H-H', I-I')

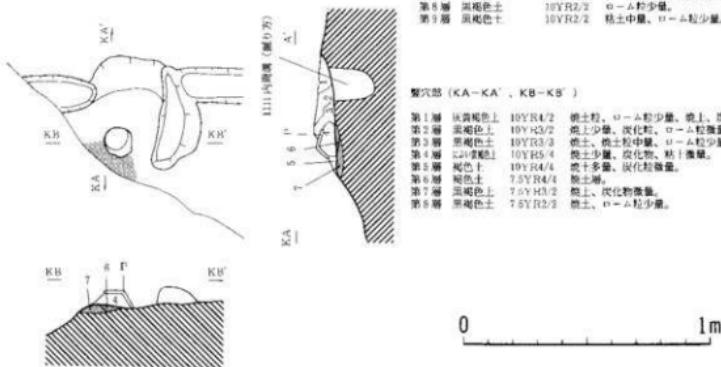
第1層 黒褐色土 5 YR4/6 植生土 (小)、炭化物微量。
第2層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物微量。粘土上、ローム粒、粘土微量。
第3層 黒褐色土 10YR2/3 ○-ム粒多量、LB(大)微量。炭化物(大)少量。
第4層 黒褐色土 10YH2/2 ○-ム粒、LB(大)微量。
第5層 黒褐色土 10YH2/2 ○-ム粒微量。
第6層 黑色土 10YR2/1 ○-ム粒微量。
第7層 黑褐色土 10YR2/3 稀削。

第63号 土坑 (K-K')

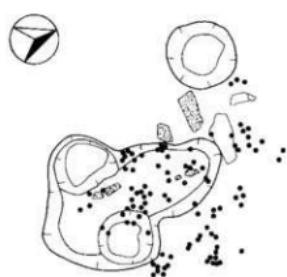
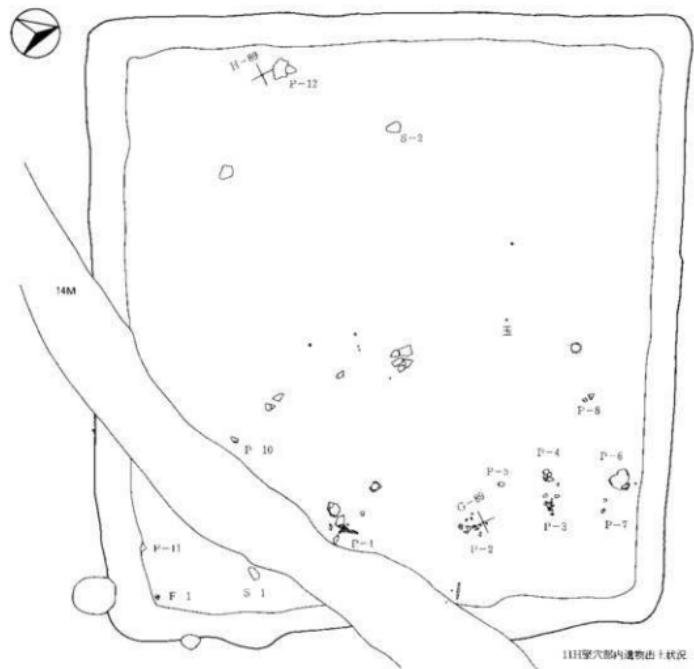
第1層 にぶい 黒褐色土 10YH7/3 粘土層。
第2層 にぶい 黑褐色土 10YR6/3 粘土層、炭化物微量。
第3層 にぶい 黄褐色土 10YR5/3 粘土層。
第4層 にぶい 黄褐色土 10YH4/3 粘土B、焼土粒、炭化物、粘土B微量。
第5層 黑褐色土 10YTG2/2 粘土多量、焼土粒微量。
第6層 黑褐色土 10YR5/3 ○-ム粒多量、炭化物微量。
第7層 黑褐色土 10YR5/3 ○-ム粒多量、炭化物微量。
第8層 黑褐色土 10YR2/2 ○-ム粒少量、炭化物微量。
第9層 黑褐色土 10YR2/2 粘土中量、○-ム粒少量。

竪穴部 (KA-KA', KB-KB')

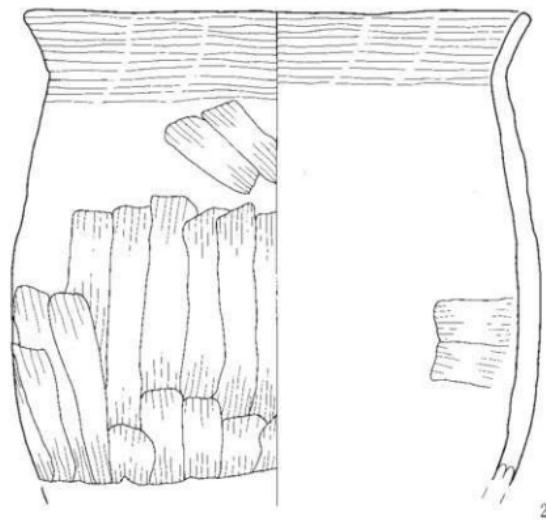
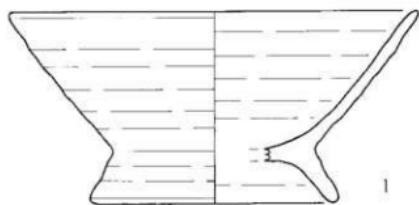
第1層 黑褐色土 10YR4/2 烧土粒、○-ム粒少量、粘土上、炭化物微量。
第2層 黑褐色土 10YR3/2 烧土少量、炭化物、○-ム粒微量。
第3層 黑褐色土 10YR3/3 烧土、粘土粒中量、○-ム粒少量、炭化物微量。
第4層 にぶい 黄褐色土 10YR5/4 烧土少量、炭化物、粘土微量。
第5層 黑褐色土 10YR4/4 烧土多量、炭化物微量。
第6層 黑褐色土 7.5YR4/4 烧土。
第7層 黑褐色土 7.5YR3/2 粘土上、炭化物微量。
第8層 黑褐色土 7.5YR2/2 粘土、○-ム粒少量。



第V-1-33図 第11号建物跡 (3)



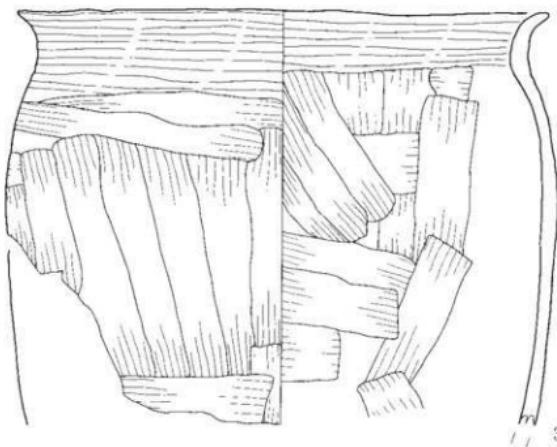
第V-1-34図 第11号建物跡（4）



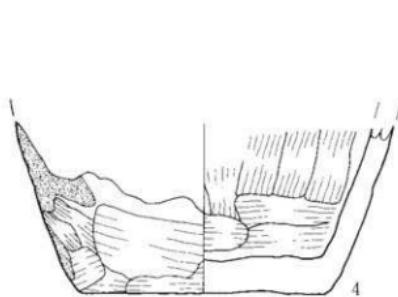
0 10cm

遺物 番号	種類	基盤	計測値 (cm)	外面調査	内面調査	底面調査	分類	備考	工具 番号
1	十輪器	环	灰陶 中土沙底 口径 16.6 基底 7.7 底径 10.0	ロクロ ロクロ ロクロ ロクロ	ロクロ ロクロ ロクロ ロクロ	ロクロ ロクロ ロクロ ロクロ		化粧粘土、高台付	
2	十輪器	盤	床面 (26.3) (19.6)	ヨコナデ ハラナデ	ヨコナデ ハラナデ	ヨコナデ ハラナデ		磨耗、炭化物付着	

第V-1-35図 第11号建物跡 (5)



3



4

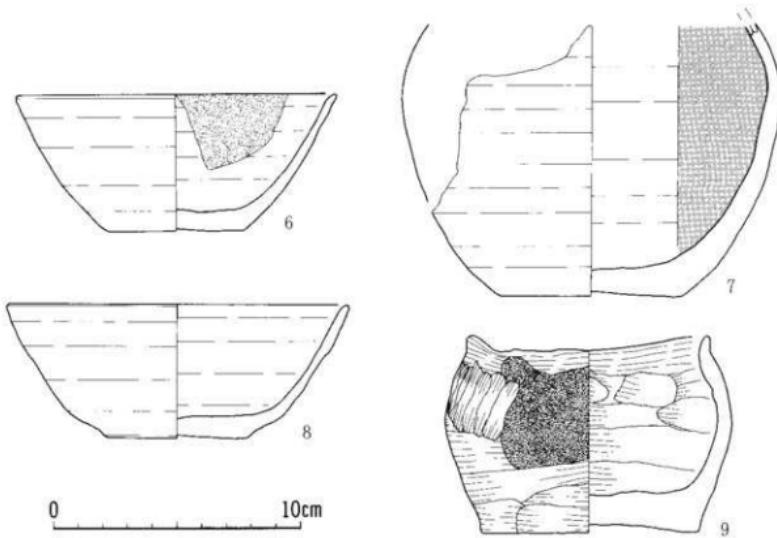


5

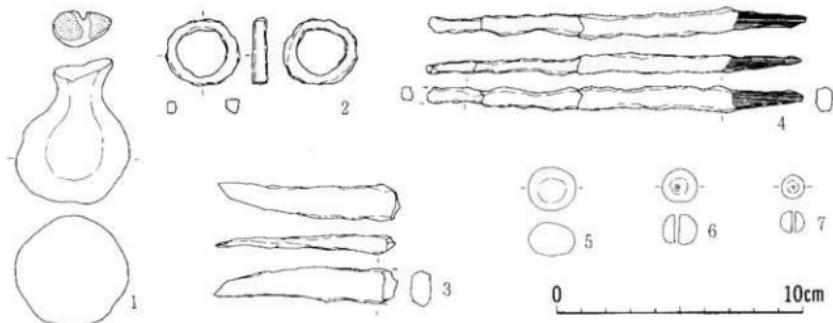
0 10cm

遺物 番号	種類	器種	出土位置	計測値 (cm)	外面調査		内面調査		底面調査	分類	備 考	写真 番号	
					口径	器高	底径	縁	部体部下	縁	部体部上半	縁	
3	土器否	縦	床油直上	(21.0) (16.9)	ヨコナデヘラナデ			ヨコナデヘラナデ					野耗
4	土器否	縦	カマド 灰坑:	(6.9) (10.0)				ヘラナデ		ヘラナデ			一次焼成、砂底、化粧 粘土
5	骨器否	大腹	底油直上	(13.7)				平	行	凸	凸	骨分析-13、 P-12 (五所用器)	

第V-1-36図 第11号建物跡 (6)



遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値 (cm)	外面調査	内面調査	底面調査	分類	備考	行員番号
6 上輪器	环	22M	フタ上	(13.0) 5.5 3.6 ロクロ ロクロ ロクロ ロクロ ロクロ	横断面直下平底	縦断面直下平底	横断面直下平底	環		
7 上輪器	環?	22M	フタ上	(10.9) 7.2	ロクロ ロクロ ロクロ	ロクロ	ロクロ	環?	内面黒色処理	
8 上輪器	环	66土	盤の中央	13.9 5.2 3.7 ロクロ ロクロ ロクロ ロクロ ロクロ	横断面直下平底	縦断面直下平底	横断面直下平底	二次焼成、環		
9 上輪器小型土器	环	66土	フタ上	(9.9) 7.9 8.9 ロコナデヘラナデヨコナデユビナデヨビナデ	横断面直下平底	縦断面直下平底	横断面直下平底	二次焼成、環		

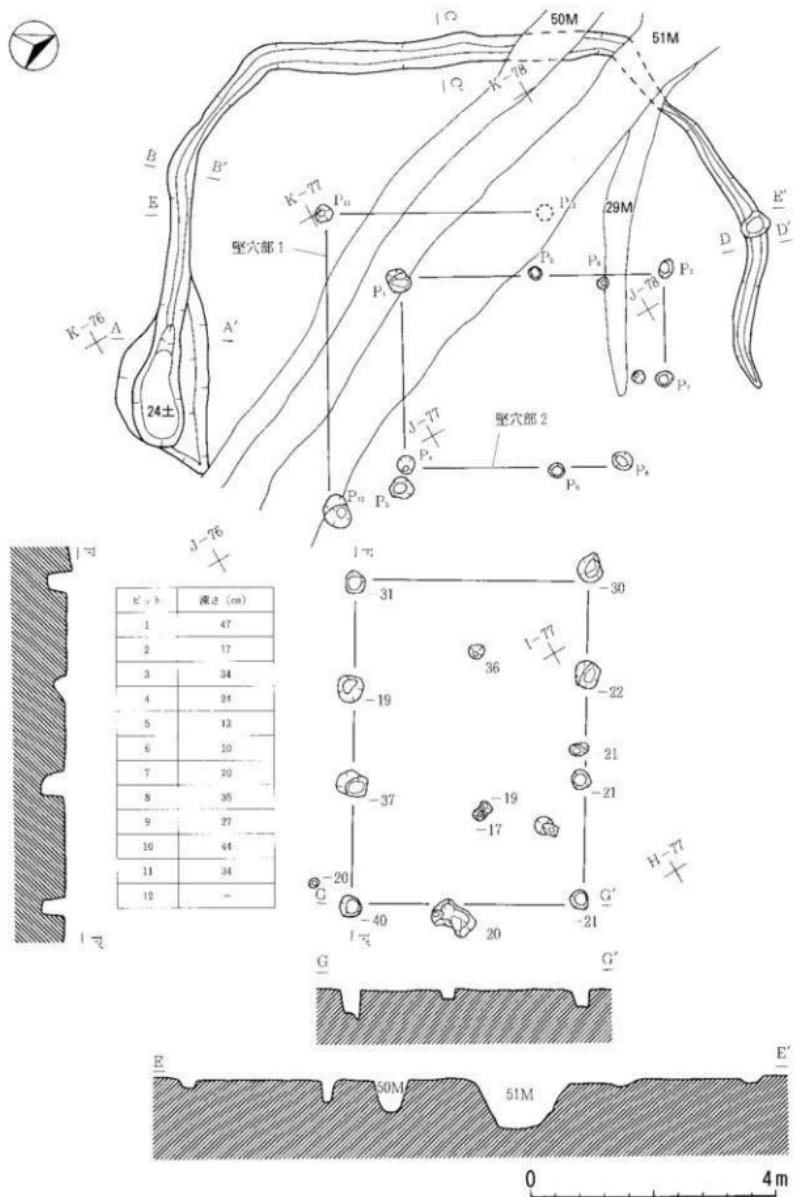


遺物番号	種類	出土位置	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (mm)	重 (g)	特徴	備考	行員番号
1	小輪器	11H-50021 蓋付	58.0	48.0	45.0	45.8	横断面直下平底	横断面直下平底	○ 17
2	小輪器	小輪	28.0	37.0	7.0	3.3	横断面直下平底	-	× 18
3	小輪器	11H-50021 蓋付	14.0	18.0	2.0	1.5	横断面直下平底	-	△ 31
4	小輪器	11H-50021 蓋付	158.0	11.0	9.0	16.7	横断面直下平底	大輪器有 一軸支點	× 05
5	小輪器	11H-50021 蓋付	125.5	19.0	13.5	2.0	横断面直下平底	横断面直下平底	△ 10
6	12-20-117482	11H-50021 蓋付	14.0	13.0	12.0	2.0	横断面直下平底	支脚	- 02
7	12-20-117482	11H-50021 蓋付	9.5	9.5	8.5	0.7	横断面直下平底	支脚	- 09

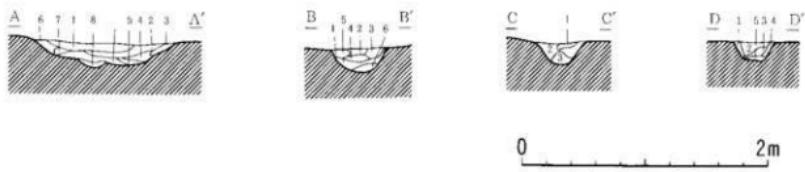
第V-1-37図 第11号建物跡 (7)

第12号建物跡 観察一覧表

位 置	I ~ J - 76~77	図版番号	V - 1 - 38~39図	写真図版番号	8 - 2
重複関係	50M、51M、8M > 9H > 12H 竪穴部は2つ有り。				
堅 穴 部	法 量	東 壁	西 壁	南 壁	北 壁
	柱間寸法1 (m)	?	3.60	4.80	?
	柱間寸法2 (m)	(4.20)	4.24	3.06	(3.04)
	周溝一 幅 (m)	—	—	—	—
	周溝深さ (m)	—	—	—	—
	平面形 (長方形)	床面積 1 - (17.1)m ² 、2 - 12.8m ²	主軸方位 N - 112° - E		
	壁	検出されなかった。	床	平坦である。	
	周 壁	検出されなかった。			
	ビット	堅穴部1 - 3個検出された。主柱穴は、P ₁ ~ P ₃ と思われる。 堅穴部2 - 9個検出された。土柱穴は、P ₁ ~ P ₉ と思われる。			
	かまど	遺存状態 検出されなかった。	位 置	不明である。	
附属施設	堆 積 土	検出されなかった。			
	出土遺物	なし。			
	掘立柱建物跡1、外周溝 - 35M、土坑 - 24土				
	堅穴部1は、「L」字形の壇状の施設である可能性が高い。				
	上部がかなり削平されており、柱穴しか検出できなかった。				
柱 部	小 結	堅穴部が2つあると思われるが、プランが不明確で、新旧関係については不明である。 第8号、第9号建物跡との重複関係や外周溝の出土遺物から、木建物跡の時期は、9世紀後半代?と思われる。			
	規 模	桁行3間(総長5.36m - 南) × 梁行2間(総長3.48m - 東)			
	平面形式	長方形を呈する東西棟建物跡である。			
掘 立 柱 部	柱 穴	径 30cm ~ 66cm の円形の掘り方である。			
	深 さ	19cm ~ 40cm である。			
	柱間寸法	桁行 — 1.74m (5尺7寸)、1.62m (5尺3寸)、2.00m (6尺6寸) 梁行 — 1.56m (5尺1寸)、2.28m (7尺5寸)			
	出土遺物	なし。			
	小 結	堅穴部1の面積 (17.1m ²) + 掘立柱部の面積 (20.6m ²) = 約37.7m ² (約23畳) 堅穴部2の面積 (12.8m ²) + 掘立柱部の面積 (20.6m ²) = 約33.4m ² (約21畳)			
外 周 溝 ・ 35 M	規 模	長 さ 18.8m 幅 34~45cm	幅 深 さ 14~17cm	断面形 幅 類 類	U字形 斜 西→東
	堆 積 土	6層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒を混入する。 南側は人為堆積、西側は自然堆積と思われる。			
	出土遺物	堆積土 — 土師器壺1、甕2、須恵器壺1			
	小 結	かなり削平されている。 タイプ - 南側は土坑が付随し、北側は末端がしつぼ状に狭まる。			
	規 模	長 軸 195cm	短 軸 150cm	深 さ	17cm
土 坑 ・ 24 上	平 面 形	楕円形	壁	ゆるやかに立上がる	底 面 凹凸がある。
	堆 積 土	8層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒を混入する。 人為堆積か自然堆積が不明。			
	出土遺物	堆積土 — 十郎器壺1			
小 結					



第V-1-38図 第12号建物跡 (1)



第24号 土坑 (A-A') (12H)

第1層	黑褐色土	10YR2/2	○-ム粒多量。
第2層	黑褐色土	10YR2/3	L.B.(人)、○-ム粒微量。
第3層	黑褐色土	10YR3/3	○-ム粒中量。
第4層	黑褐色土	10YR2/2	○-ム粒少量。
第5層	黑褐色土	10YR2/2	○-ム粒中量。
第6層	黑褐色土	10YR2/2	○-ム粒中量。
第7層	黑褐色土	10YR2/2	○-ム粒中量。
第8層	黑褐色土	10YR2/2	○-ム粒少量。

第35号 溝跡 (B-B') (12H)

第1層	深褐色土	10YR3/2	○-ム粒微量。
第2層	黑褐色土	10YR2/3	○-ム粒少量。
第3層	暗褐色土	10YR3/2	○-ム粒少量、炭化物微量。
第4層	黑褐色土	10YR3/2	○-ム粒少量。
第5層	黑褐色土	10YR3/3	○-ム粒中量。

第35号 溝跡 (C-C') (12H)

第1層	黄褐色土	10YR5/6	砂、L.B.微量。
第2層	暗褐色土	10YR3/2	○-ム粒少量、炭化物、L.B.微量。

第35号 溝跡 (D-D') (12H)

第1層	淡黃褐色土	10YR4/2	○-ム粒多量。
第2層	褐褐色土	10YR3/3	○-ム粒少量。
第3層	深褐色土	10YR3/2	○-ム粒少量。
第4層	暗褐色土	10YR3/4	○-ム粒中量、炭化物微量。
第5層	暗褐色土	10YR3/3	L.B.中量。

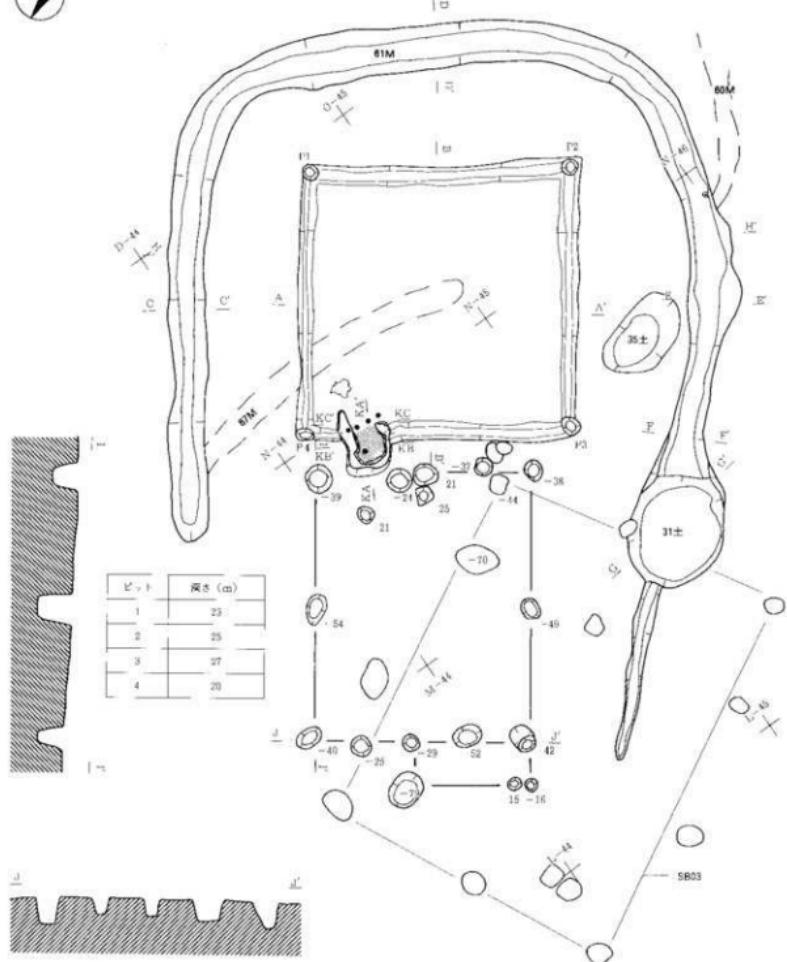


遺物 番号	種類	基種	計測値 (cm)			外面調査	内面調査	式面調整	計 数	備 考	写真 番号
			出上位置	口徑	底高						
1	上部器	小型土器	55cm穴 7.9土	8.3	4.7 -6.1	ヘラナゲヘリタツ ヘラナゲ	ヨシナゲエビナゲ ヨシナゲ	ユビナゲヘリタツ		磨耗	

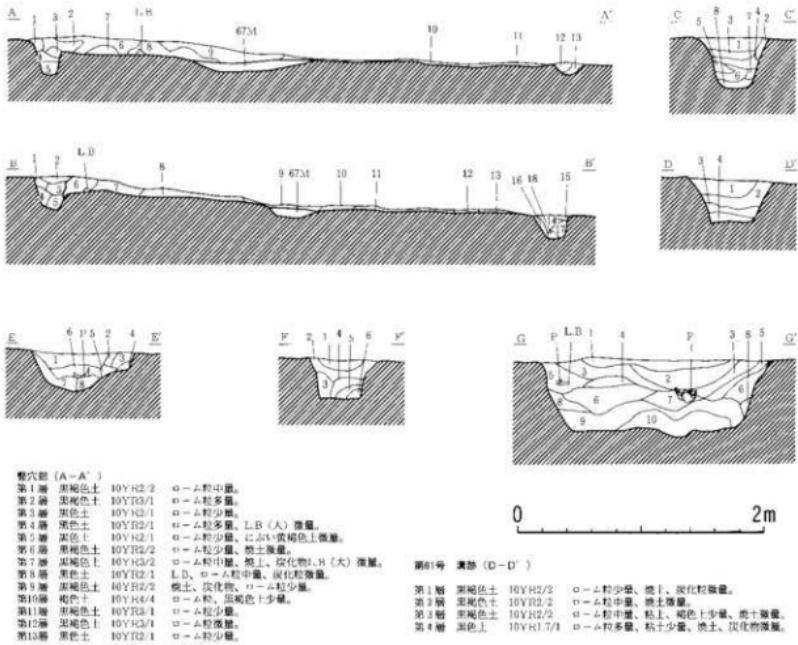
第V-1-39図 第12号建物跡 (2)

第13号建物跡 観察一覧表

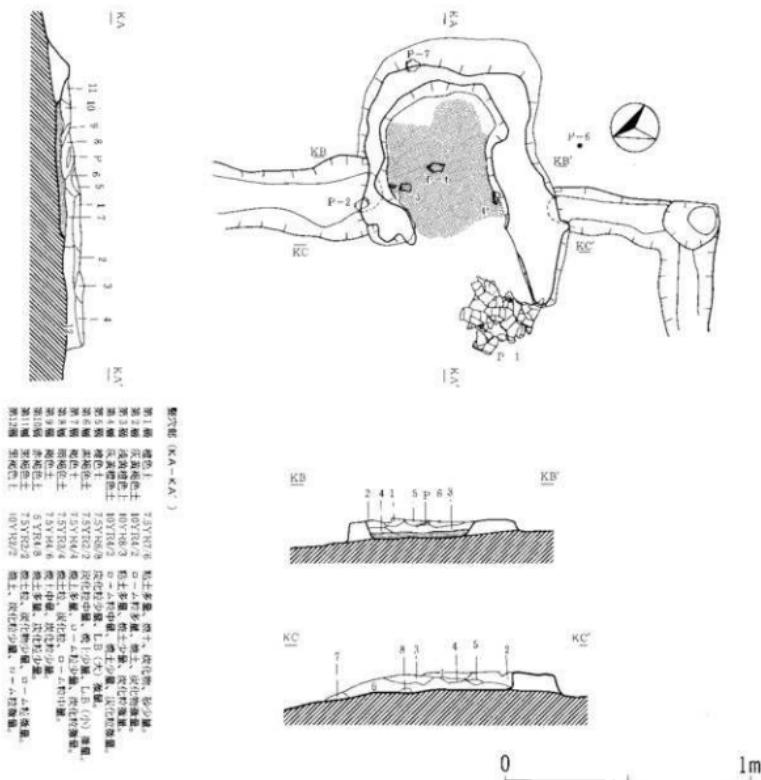
位 置	M~N-43~45	図版番号	V - 1 -40~44図	写真図版番号	10 - 1 ~ 6
重複関係 S B03>13H>61M、67M					
法 量	壁 長 (m)	東 壁 4.50	西 壁 4.50	南 壁 4.40	北 壁 4.54
	壁 高 (m)	—	—	—	—
	周溝幅 (m)	—	28	30	24
	周溝深さ (m)	—	18	26	30
平 面 形	正方形	床面積 約15.2m ²		主軸方位 N-118°-E	
壁	検出されなかった。		床	平坦である。	
周 壁	かまど直下を除き一巡する。				
ビ ッ ト	4箇検出された。 土柱穴は、P~P ₁ と思われ、四隅に配置されている。				
六 部	遺存状態 良好	位 置 東壁の南寄りである。			
かまど	かまど本体は白色粘土等を貼り固めており、芯材は使用していない。燃焼部は本体から掘り込みされており、火床面は55cm×40cm程の不整な椭円形を呈している。煙道部は、半近式で住居跡外に50cmほど延びている。				
堆 積 土	13層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼上、炭化物を混入する。 人為堆積と思われる。				
堆 積 土	堆積土 — 土器器22、甕5、須恵器壺1				
出土遺物	かまど堆積土 — 土器器、甕6				
附 属 設	胎土分析の結果、須恵器は五所川原產と推定される。				
小 結	掘立柱建物跡1、外周溝-61M、土坑-31土 67M及び35土は、木建物跡に伴う可能性がある。 出土遺物及び白頭山火山灰の検出状況から、木建物跡の時期は、9世紀末~10世紀初頭と思われる。				
掘 立 柱 部	規 模 楼行2間(總長4.20m-南)×梁行4間(總長3.56m-東) 平面形式 長方形を呈する東西棟建物跡である。 柱 穴 径 19cm~58cmの円形の掘り方である。 深 さ 15cm~79cmである。 柱間寸法 楼行 — 2.14m(7尺0寸)、2.06m(6尺7寸) 柱間寸法 梁行 — 0.74m(2尺4寸)、0.80m(2尺6寸)、0.92m(3尺0寸)、 1.02m(3尺4寸)				
1	出土遺物 なし。				
	小 結 窓穴部の面積(15.2m ²)+掘立柱部の面積(15.0m ²)=約30.2m ² (約19骨)				
外 周 溝	規 模 長 さ 25.6m 深 さ 30~41cm	幅 57~84cm 幅 22~36cm	断面形 箱形 傾 斜 西→東		
・	堆 積 土 8層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、焼上、炭化物を混入する。上部で白頭山火山灰が検出された。人為堆積と思われる。				
61	出土遺物 堆積土 — 土器器22、甕110、須恵器壺3、壺2				
M	小 結 タイプ-南側はほぼ同じ幅、北側は土坑が付随し、外周溝の末端は更にしつば状に延びる。 遺物が廃棄された形で出土した。他に比較して遺物量が非常に多い。				
土 坑	平 面 形 楼円形	壁 ゆるやかに立上がる	底 面 ほぼ平坦である。		
・	規 模 長 軸 182cm 短 軸 150cm	深 さ 57cm			
31	堆 積 土 8層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローム粒、炭化物を混入する。 人為堆積と思われる。				
上	出土遺物 堆積土 — 土器器14、須恵器3				
	小 結 掘り込みが深く、しっかりしている。				



第V-1-40図 第13号建物跡 (1)



第V-1-41図 第13号建物跡 (2)



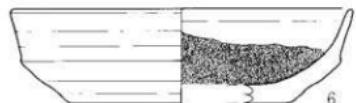
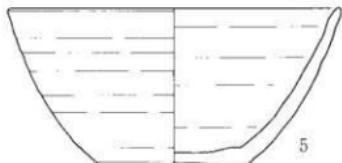
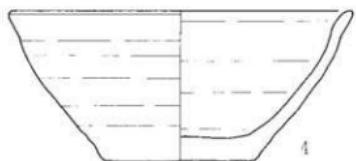
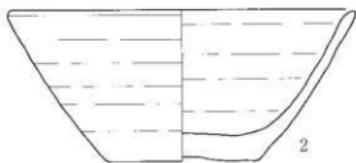
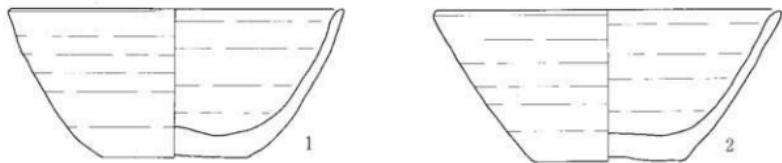
鑿穴部 (K-B - K-B')

第1層	棕褐色土	7.5YR6/1	○ - ム多量、炭化物少量、粘土微量。
第2層	棕褐色土	7.5YR4/4	粘土中量、砂土少量、炭化物少量。
第3層	棕褐色土	7.5YR2/4	砂土中量、或上、○ - ム少量、炭化物微量。
第4層	棕褐色土	5 YR4/4	砂土多量、炭化物少量。
第5層	棕褐色土	7.5YR3/4	砂土粒、炭化物、○ - ム粒中量。
第6層	棕褐色土	10YR3/3	砂土、炭化物、○ - ム粒中量。

鑿穴部 (K-C - K-C')

第1層	褐色土	7.5YR7/6	粘土多量、砂土、炭化物、较少量。
第2層	棕褐色土	10YR3/3	粘土上、○ - ム粒中量、或上、少量、炭化物微量。
第3層	灰褐色土	10YR2/3	○ - ム粒中量、或上、少量、炭化物微量。
第4層	褐色土	10YR3/3	○ - ム粒中量、或上、少量、炭化物微量。
第5層	灰褐色土	10YR5/4	○ - ム粒多量、砂土、炭化物微量。
第6層	褐灰色土	10YR2/2	砂土、炭化物少量、○ - ム粒微量。
第7層	黄褐色土	10YR5/6	砂土、○ - ム粒微量。
第8層	褐灰色土	10YR2/3	砂土少量、炭化物微量。

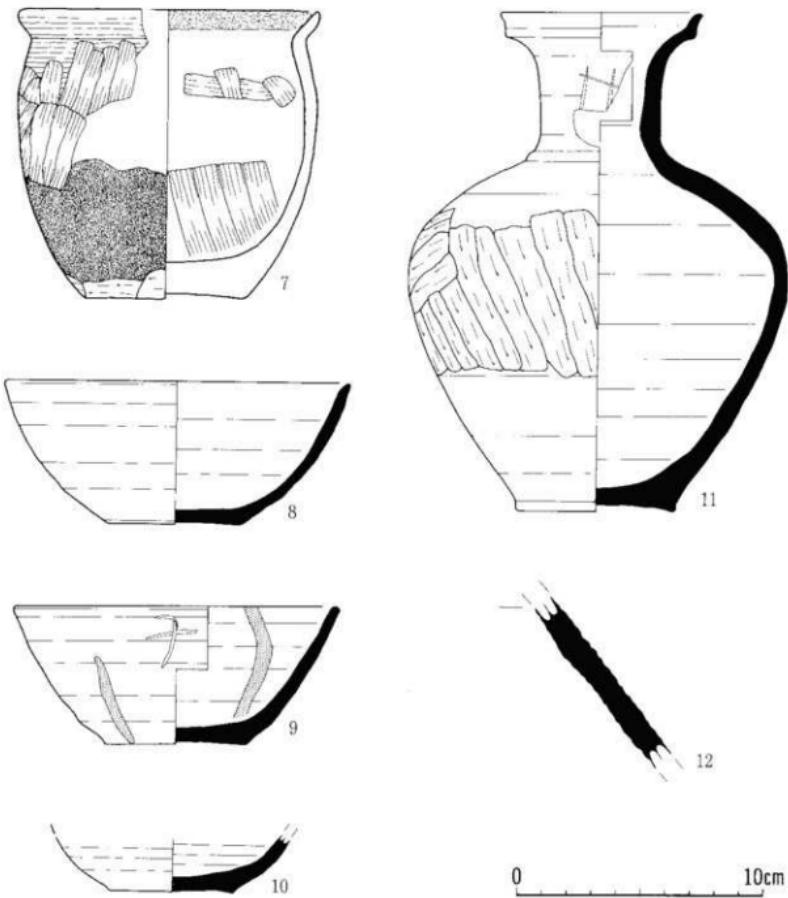
第V-1-42図 第13号建物跡 (3)



0 10cm

遺物 番号	種類	基盤 寸十位数	計測値(cm)	各面 調査			内部調査			直面調整 状況	分類	備考	写真 番号
				上径	基高	底径	1種 壁体部上半体部下半	1種 壁体部下半体部下	1種 壁体部下				
1	土器底	环 フクチ	61M 61M	13.6	6.0	6.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	磨耗		
2	土器底	环 フクチ	(14.2)	6.2	6.2	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	磨耗		
3	土器底	环 フクチ	61M (14.0)	6.1	6.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	磨耗		
4	土器底	环 フクチ	61M (14.0)	6.0	6.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	磨耗		
5	土器底	环 フクチ	61M (13.6)	6.3	6.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	磨耗		
6	土器底	环 フクチ	61M (14.0)	3.8 (9.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	磨耗、 研磨具、二次焼 成		

第V-1-43図 第13号建物跡(4)

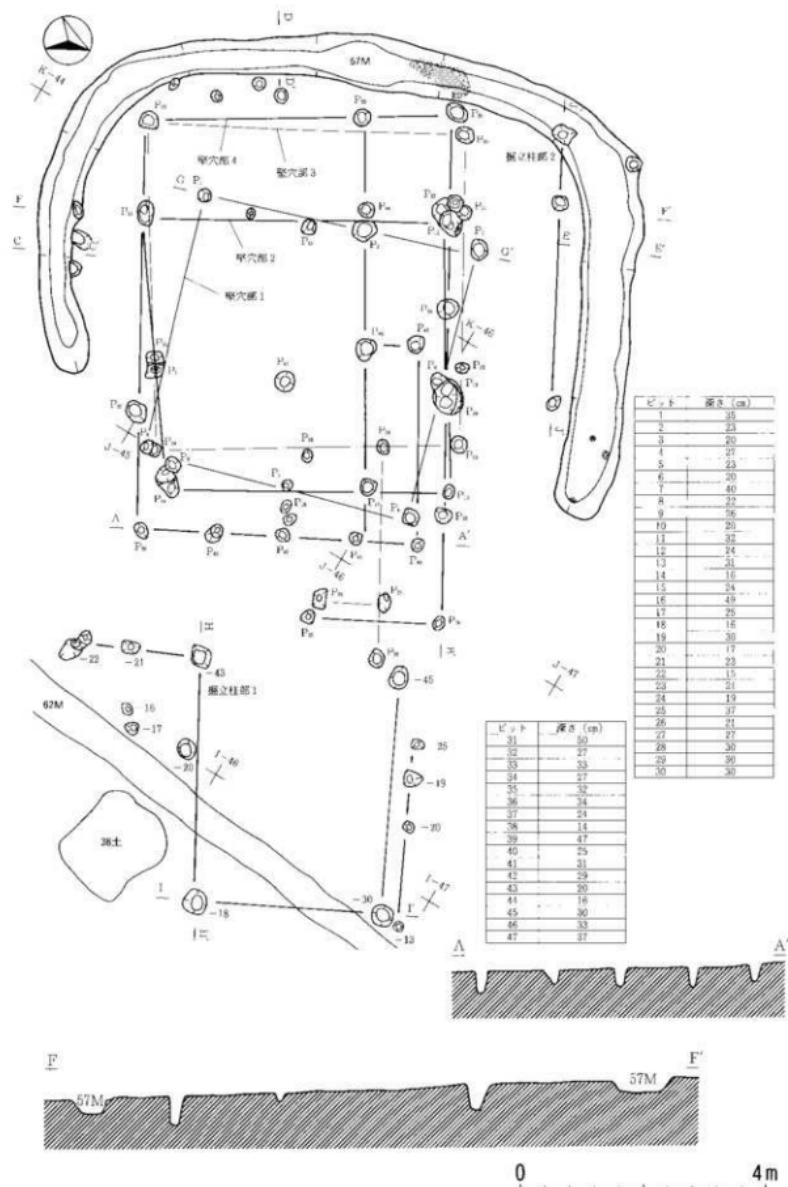


遺物 番号	種類	若瀬	出土位置	計測値 (cm)	外 面 調 整	内 面 調 整	式面調整	分 類	考 古 書
7	土縫器 小石縫	61M フカト	11往 路面 底付	12.2 11.7 6.4	ヨクナダヘラタグヘラナダ		ヘラナダヘラナダ		ハクリ。スス。灰焼成
8	須瀬器	64M フカト	(14.0) 5.7 (5.6)	ロクロ ロクロ ロクロ ロクロ ロクロ ロクロ	ロクロ ロクロ ロクロ ロクロ	ロクロ ロクロ	ロクロ	圓錐形	二次焼成
9	須瀬器	65M フカト上	(3.2) 5.5 8.7	ロクロ ロクロ ロクロ ロクロ	ロクロ ロクロ ロクロ	ロクロ ロクロ	ロクロ	大タスキ裏、ヘラ骨紋	日
10	須瀬器 环	65M フカト	(2.1) (3.1)	ロクロ			ロクロ	圓錐形	
11	須瀬器 及插足	31T フカト	(8.2) 20.5 (6.4)	ロクロ ヨクナダヘラタグヨクナダ	ロクロ ロクロ ロクロ	ロクロ ロクロ	花文	"ヘラ骨記号、航山分析-28(五西川層)	
12	須瀬器 大縫	31T フカト	(6.7)	ヨクナダ	平行	平行	ヨクナダ	航山分析-47(奥人)	

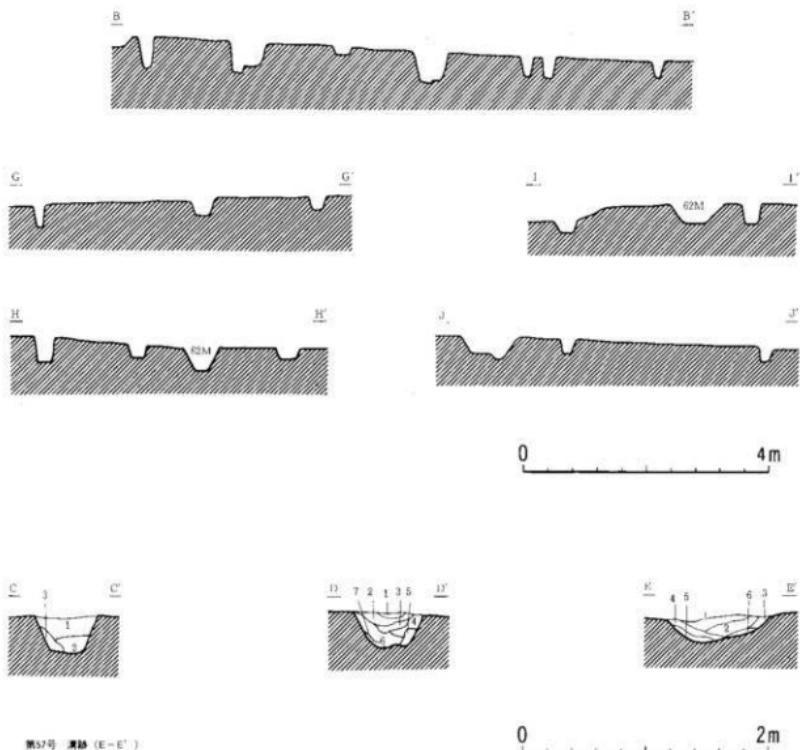
第V-1-44図 第13号建物跡 (5)

第14号建物跡 観察一覧表

位 置	J ~ K - 44 ~ 46	図版番号	V - 1 - 45 ~ 46図	写真図版番号	10 - 7	
重複関係	62M > 14H、34Hとの新旧関係は不明である。 縦穴部は4度の建替えがあった可能性がある。新旧関係は、1 → 2 → 3 → 4と思われる。					
法 量	柱間寸法 1 (m) 柱間寸法 2 (m) 柱間寸法 3 (m) 柱間寸法 4 (m)	4.21 4.48 5.22 6.60	西 壁 4.42 4.85 5.03 6.84	南 壁 4.50 4.32 5.12 4.95	北 壁 4.40 4.53 4.90 4.92	床面積 (m ²) 18.9 19.3 26.7 32.7
堅 平 面 形	1 - 正方形、2・3・4 - 長方形			主軸方位	N - 54° - E	
空 壁	検出されなかった。			床	ほぼ平坦である。	
周 壁	検出されなかった。					
穴 ピ ッ ト	竪穴部 1 - 9個検出された。主柱穴は、P ₁ ~ P ₆ と思われる。間仕切りの可能性もある。 竪穴部 2 - 9個検出された。主柱穴は、P ₁₁ ~ P ₂₀ と思われる。 竪穴部 3 - 18個検出された。主柱穴は、P ₂₁ ~ P ₂₈ ~ P ₂₉ ~ P ₃₀ と思われる。 竪穴部 4 - 9個検出された。主柱穴は、P ₃₁ ~ P ₃₈ ~ P ₃₉ ~ P ₄₀ と思われる。					
か ま ど	遺存状態 検出されなかった。		位 置	不明である。		
堆 積 土	検出されなかった。					
出土遺物	なし。					
附減施設	掘立柱建物跡 1、外周溝 - 57M、土坑 - なし	58土が伴う可能性がある。				
部 北側に 2間、西側に 1間 (2列) の規則状の施設。						
小 精	かなり削平されていたが、多数の柱穴を検出することができた。 他の建物跡と比べて、竪穴部と掘立柱部の間に少し距離がある。 出土遺物や4度にわたる建替えの跡から、本建物の時期は、10世紀前半とかなり幅があると思われる。					
掘 立 柱 部 1	規 模 桁行 2間 (総長3.84m - 南) × 桁行 1間 (総長2.96m - 東) 平面形式 長方形を呈する東西棟建物跡に、支柱が附属すると思われる。 柱 穴 径 8cm ~ 36cm の円形の掘り方である。 深さ 11cm ~ 45cm である。					
柱間寸法	桁行 — 1.54m (5尺 0寸) 、 2.30m (7尺 6寸) 梁行 — 2.96m (9尺 8寸)					
出土遺物	柱穴堆積土 — 土師器窯?					
小 精	竪穴部 1 の面積 (18.9m ²) + 掘立柱部の面積 (11.4m ²) = 約30.32m ² (約19壁) 竪穴部 2 の面積 (19.3m ²) + 掘立柱部の面積 (11.4m ²) = 約30.72m ² (約19壁) 竪穴部 3 の面積 (26.7m ²) + 掘立柱部の面積 (11.4m ²) = 約38.12m ² (約24壁) 竪穴部 4 の面積 (32.7m ²) + 掘立柱部の面積 (11.4m ²) = 約44.12m ² (約27壁)					
掘 立 柱 部 2	規 模 2間 (総長4.30m) 平面形式 直線を呈する東西棟建物跡である。					
柱 穴 径 26cm ~ 42cm の楕円形の掘り方である。 深さ 10cm ~ 25cm である。						
柱間寸法 桁行 — 1.10m (3尺 6寸) 、 3.20m (10尺 6寸)						
出土遺物 なし						
小 精 竪穴部の北側に位置する。						
外 周 溝 57 M	規 模 長さ 23.2m 深さ 19 ~ 28cm 堆 積 土 7層に分層された。黒褐色土を主体とし、ローラー磨、焼土を混入する。 人為堆積と思われる。 出土遺物 堆積土 — 上師器窯 2、甕 16 小 精 削平されている。 タイマー - 土坑が付随しない。北側はやや幅広い。	幅 52 ~ 85cm 幅 24 ~ 50cm 傾 斜 西・東	断面形 箱形			



第V-1-45図 第14号建物跡 (1)



第52号 漢跡 (E-E')

第1層	黑色土	10YR1.7/3	粘土粒、ローム粒少量。
第2層	深褐色土	10YR2.1/1	粘土粒、灰化物、ローム粒微量。
第3層	黑色土	10YR2/1	粘土粒、灰化物、ローム粒微量。
第4層	深褐色土	10YR2/1	粘土粒、灰化物、L.B.粒微量。
第5層	褐色土	10YR4/4	ローム粒多量、砂微量。
第6層	深褐色土	10YR3/1	ローム粒多量。

第52号 漢跡 (D-D')

第1層	深褐色土	10YR2/2	ローム粒少量、粘土粒、灰化物微量。
第2層	深褐色土	10YR2/2	粘土粒、灰化物、ローム粒微量。
第3層	深褐色土	10YR2/2	ローム粒少量、粘土粒少量。
第4層	深褐色土	10YR2/2	ローム粒少量、粘土粒少量。
第5層	深褐色土	10YR2/2	ローム粒中量、粘土粒、灰化物微量。
第6層	深褐色土	10YR2/2	粘土粒、灰化物、ローム粒微量。
第7層	黑色土	10YR2/1	L.B.、ローム粒中量、灰化物微量。

第52号 漢跡 (C-C')

第1層	黑色土	10YR2/1	ローム粒中量、粘土粒、灰化物微量。
第2層	深褐色土	10YR1.7/1	L.B.(人)、ローム粒多量、粘土(人)少量、灰化物微量。
第3層	深褐色土	10YR3/2	ローム粒中量、粘土、灰化物微量。

第V-1-46図 第14号建物跡 (2)